

恥辱の野球部♂ 夜這い悪戯

キャプテン翔太①



思春期は友達の成長具合が気になる時期だ。
合宿の夜、万年補欠の主人公が、主力の
チームメイトを夜這い悪戯し秘密を握る

BL恥辱小説
南国球児

1. 少年野球時代スター選手の同級生

野球部の翔太、小学校野球の頃からスター選手。

小学校最後の大会では、
最優秀選手に選ばれたほどだった。

中学校でも、異例の中1から
スタメンに選ばれ、
当然ながらボクたち学年の
キャプテンに選ばれた。

誰の目から見ても輝かしい翔太。
性格は自信に溢れ、少し
やんちゃな要素も併せ持っている。

父親も野球経験者だが、甲子園を
目指していたというレベルでも無
く、
元不良かな…？

そんな佇まいの、厳つい見た目だ。
なのに、ひょうきんで明るく、
父親メンバーからも、いじられキャラで、
チームメイトの子供達からも人気のお父さんだった。

小学校時代から同じチームに所属していたボクたちは、
大会の打ち上げがある度、誰かの家でお泊まり会をした。

親たちは遅くまで飲み潰れ、
そしてボくら子供達は一つの部屋に布団を敷いて、
みんなで雑魚寝スタイル、
楽しい夜を過ごすのだ。

子供時代というのは不思議なものだ。



みんなで一緒に寝泊するという、
ただそれだけのことで興奮し、
同じ布団に潜り込んだり、枕投げ
をして騒ぎ、
酔っ払った誰かのお父さんに怒鳴
られたり、
ただそれだけで楽しいのである。



そんな小学校時代の一番の楽しみ
は、
大会後のお泊まり会で、
チームのみんなでスーパー銭湯に行くことだった。

その当時から同性の裸に興味を持っていたボクにとって、
チームメイトのお父さん達の、
普段は隠されている裸姿、
大きく毛深いケツや、
そして子供とは全く違う、
毛に覆われた恥ずかしいおちんちんを
観察出来ることが、
異常な興奮を呼び起こすのだ。

小学校6年になると、中には
陰毛がしっかりと生えている友達もいたし、
また、産毛が生えかけている友達もいた。

そんな友達の性徴具合を、なんの恥ずかしげも無く、
無邪気に見せ合いっ子するのだった。

お父さん達はそんな無邪気な子供達を
懐かしく、微笑ましく見守りつつ、大人の話にふける。

同性に興味を持っていたボクは、
誰のお父さんのおちんちんが一番大きいのか

密かに観察し、股間にムズムズとした
気持ちよさを感じていた。

太地のお父さんのちんぽが一番デカイ…

竹志君のお父さんは太さが一番…

ユウキ君のお父さんは長いけど細くて先っぽだけデカくて変…

伸太のお父さんのケツデカイ…。カラダデカイのにチンポ小っちゃくて笑

雄星くんのお父さんのちんぽが一番エロいな～

そうやって、ボクなりのランキングを付けていた。

そんな中、

人気者の翔太のお父さんは、肉体労働系で筋肉質、

そして野球経験者らしいケツのデカさが

とても魅力的なカラダだが、

他のお父さん達が平気でチンポをブラブラ、

堂々と見せびらかす中、

さりげなく前を隠しており、

全く隙を見せず、陰毛すら見せてくれなかった。

とてもガードが堅かったのだ。

そうやって、隠されれば隠されるほど、見たくなるものだ。

体つきがカッコいいだけに、

余計にその隠されたおちんちんに

興味を惹かれた。

まるで生き写しのようになっけりな翔太はと言えは、

毛の生えた同級生達と比べ、

特に成長しているわけでも無く、

多くのチームメイトのように、

ツルツルの無毛、

おちんちんも普通に小学生らしい、

先っぽまでしっかりと皮を被った、
白く、プリプリした細くて小さなおちんちんで、
特に興味を惹くようなものではなかった。

当時のボクにとって興味の対象というのは、
自分とは違って毛が生え始めている同級生の、
少し大きめなおちんちんだったのである。

中学校に上がると、そうやって
スーパー銭湯に行く機会は無くなっていった。

学童野球時代とは違い、
学校主体、教育の一環、
部活動として行われる野球の運営では、
父母の参加する機会は失われて行き、

また、他の小学校出身のメンバー達とのレギュラー争いなど、
ギスギスした関係性から、
徐々に友達同士の関係性も変わっていったのである。

中学での先輩後輩の厳しさ…通例儀式的リンチ…合宿決定

小学校までは、先輩後輩の関係はゆるく、
タメ口が当たり前だったが、

中学校では入部後、ひとり一人部室に呼び出され、
先輩からの謎の集団リンチによって、上下関係が徹底された。

先輩の命令には絶対服従、
間違っあいさつを忘れたりすれば、
連帯責任で全員がボコボコにされるなど、
どこの野球部にもあるような、そんな儀式が行われていた。

大人になって振り返れば、それも良い思い出、
武勇伝のようでもある。

また、リンチをするが、怪我をさせたり、
アザが出来るほど強く暴行することは決して無かった。

只々、上下関係を教え込むための通例儀式、
そしてそこで教え込まれた先輩後輩の礼儀作法が、
大人になって大いに役立つことになるのだ。
が、その頃は本当にイヤで仕方が無かったのである。

そんな中、特別扱いだったのが、スター選手の翔太だった。

中3の先輩からも可愛がられ、
中2の先輩達を差し置いてスタメンであり、
監督のお気に入りでもあったため、
その通例儀式のリンチは免除されていた。

礼儀正しさも、十分に備わっており、
性格も明るく、父親同様ユーモアもあり、
何より抜群の運動神経、野球のうまさがあり、
リンチの儀式を免れていたのも当然に思えたのである。

一方で、そんな特別扱いに不満を抱く者たちもいた。

それは一部の先輩達と、別の小学校出身メンバー達である。

まず自分たちを差し置いてスタメンになった後輩として、
メンツを潰されたと感じていたようだ。
手を出したくても出しづらく、
性格も良いため、欠点が無いのである。

自分たちが普通に応援練習や、グラウンド整備をする中、
レギュラーとして当たり前練習に参加することにも
不満を抱いていたようである。

そして他の小学校出身メンバー達にも、
もちろんほんの一部であるが、
やはり特別扱いに対し、不公平感を募らせていたようである。

そして中2の夏を迎えた頃だった。

チームは県大会出場を決めた。

その年は大会の会場が僻地に当たっていたため、
大会期間中は久々の合宿となったのである。

それは小6最後の大会の夜以来となる合宿（お泊まり会）であり、
あんなに慣れていただけが、
約1年と半年ぶりの合宿に胸が躍った。

同性への興味を自覚していたボクにとって、
仲間達、そして先輩達の裸を見る絶好の機会なのである。

先輩達の、微妙に大人に近づいている体つき、
野球の練習着、ユニフォームの下の恥ずかしい全裸姿…。

その想像をオカズに夜な夜なオナニーに励んでいたボクにとって、
大好きな先輩のおちんちん、そしてケツ、
全裸姿を目に焼き付ける最初で最後の機会なのである。

そしてずっと憧れの存在である同級生、
翔太の裸姿を久しぶりに拝むことが出来ることに興奮した。

最後に見たのは小6の2月頃、
あのスーパー銭湯で見た、当時のボクと変わらず
ツルツル、プリップリの小さなカワイイおちんちん姿…



あれからボクのおちんちんには毛が生え、
そして毎日の自慰行為によるトレーニングで大きく成長し、
包皮もペロン！と剥くことが出来るようになっている。

まだフル勃起したときに剥くと、口先が狭すぎて痛いため、
剥くことが出来るのは平常時だけであるが、
それでもお風呂の時には時々剥いて、
ピンク色の綺麗な亀頭に溜った白い恥垢（チンカス）を洗うのだった。

順調に成長していれば、同級生達だって同じように成長し、
きっと皮も剥けているはず…

何より大きさがどれくらい成長しているのか…

もう想像では無く、この合宿で実際の大きさを
目に焼き付けることが出来るかもしれない！

目に焼き付けるだけで良いのか…？

そうだ、デジカメが必要だ！！

幽霊部員の太地について

当時は今のようにデジカメが普及している時代では無かった。
ギリギリ、デジカメ 200 万画素～ 300 万画素の機種が
普及しはじめた頃だ。

このカメラに、翔太のおちんちん、
そして同級生何人かのチンポ画像を記録出来たら…

そんなドキドキ感を胸に抱きながら合宿に臨んだ。

話は変わって、レギュラー組とはほど遠い、
ボクと同じ球拾いグループに太地というチーム
メイトがいた。

彼は、小学校でも同じチームメイトだったが、
目立たず、控えめなタイプだ。

体型もぼっちゃりで、
なぜ野球部に入っているのか分からないような
運動音痴だが、
練習には必ず参加している。

来ているのに幽霊部員

といった影の薄いキャラだ。



そんな太地とは対照的に、父親は態度もデカく、
監督にも口出しするウルサイ人だった。
(そして確かチンポも馬鹿デカかった記憶がある…)

子供が主力でも無い割にチーム運営にあれこれ口出しし、
飲み会での幹事も太地の父親がやるが多かった。

太地と見た目そっくりな親父さんは、
翔太の父親とは小中高、ずっと同じ野球部だったらしい。
その関係性はよく知らないが、
互いに信頼しているようにも見えるし、
古い付き合いだけあって、
特別な関係性は感じられた。

ただ、どう見ても翔太の父親の方が
厳ついし、強そうなのだが…。

子供の目から見ても、
一番強そうな翔太の父親が
いじられキャラだったのは、とても
不思議に思えるのだった。



その小型版とも見える太地、
性格は真逆の根暗、静かで何を考えているかは全く分らない。

気がついたら後ろに立っていて、
心臓が止まりそうになるほど驚かされることもよくあった。

ただ、無口で時々なにかつぶやいているが、
無害な陰キャラ…という印象だけしかない。

父親が強すぎて、大人しくなったタイプとも思えた。

小学校時代のスーパー銭湯の時も、お泊まり会でも、
毎回いたはずだが、ボクにとっては

全く性的な興味を惹かれるタイプでも無かったため、
記憶にすら無い感じだった。

思い出の全裸フルちゃん記念写真で見返し、
父親譲りの、そのデカチンには驚いたものの、
やはり、性的な興味の対象では無かった。

そんな無害なはずの陰キャラ太地が、
ボクの思春期の思い出に、大きな爪痕を残してしまうことになるとは、
その時は全く予想だにしなかったのである。

合宿浴場での公開オナニーショー

宿泊先は、規模は少し小さめだが、
学生達の宿泊研修や、合宿を対象とした施設であり、
規模の割には、大浴場がちょうど良いサイズであり、
期待が膨らんだ。

部屋の割り振りも、中1は大部屋、
中3は5人部屋が割り当てられ、

ボク達中2メンバーはその中間の
6～8人程度の布団が敷ける中部屋だった。

大会の結果によるが、
最低でも3泊4日、決勝まで行けば、5泊6日まで伸びる。

初日は大会準備や、開会式だけであり、
チームメイト同士での合宿に興奮気味のボクたちは、
はしゃぎすぎて監督に怒鳴られたりしつつ、楽しく過ごせた。

楽しみのお風呂、
監督の指示により、学年ごとでは無く、

初日は学年混合での割り振りになった。

ボクにとっては大好きな先輩達の裸が拝めるということもあって、
ボッキしないか心配でしょうが無かった。

残念ながら、お目当ての翔太とは一緒に出来なかったが、
それは夜のお楽しみだ。

初日のお風呂グループの先輩達は、
ノリの良い、ド変態な
駄琉（かける）先輩グループにあたり、
お陰で、何も知らない中1の後輩達に
オナニーのやり方を教える！と言って、
悪ノリして
シコシコとボッキさせる実演を見せ始めた。



すでにオナニーを知る中1は、大きさの全然違う
中3のカッコいい駄琉（かける）先輩のフル勃起チンポに興奮し、
つられてボッキしてきたり、
まだ知らない後輩達は、頭がのぼせたように
なっていた。

そんな先輩の悪ノリ公開オナニーに、
ボクたち中2の数人も、
強引にオナニー実演に
参加させられたのである。



中3の先輩と横に並んで
シコシコとオナニー姿を晒し、
中1だけで無く、
他の先輩や、普段見せ合うことなど決して無い同級生達にも
恥ずかしい姿を見られてしまったのだ。

1人ならば恥ずかしい公開オナニー姿の披露だが、
主力の駄琉（かける）先輩や、同級生の仲間数人と並んで

オナニー姿を晒すことで、
少しは恥ずかしさは和らぐと共に、
新たな、露出オナニーによる
ド変態な快感を味わえただろう。

イヤイヤやらされている感じから、
先輩のエロイ吐息や、
気持ちよさそうに
「あ…、ああ…超キモチイイ…ああ…イキそう…ああ…」
そんな恥ずかしい声に刺激され、
次第に中2の同級生達も快感を求めて、
本気モードのオナニーに変化していく様子が見られた。

そして1人が、先輩よりも先に射精してしまったのである。

かわいい後輩の射精姿にさらに興奮を増した駈琉先輩は、
それに続くように、
「ヤバい！オレもイキそう…！イクッ！イクッ！ああっ！！！！」
と、恥ずかしい声をあげながら
豪快に精液をぶっ放したのだった。

筋肉質な先輩達のそんな恥ずかしい姿、そして
中1のものとは濃さも量も違う精液が、
近づいて観察していた何人かの顔や、裸体に掛かったが、

先輩のありがたい精液を
汚い！
なんて言えるわけも無く、
その中1の穢れない裸体に飛び散った
ヌルヌル、ドロドロの精液を
みんなで観察しては、
つられてフル勃起したおちんちんを
互いに確かめ合っていた。

自分が射精し終わると、途端に

賢者タイムに入って行った駄疏先輩は、
急激に恥ずかしくなったようだ。

緊張からか、
なかなか射精出来ずにいる中 2 の後輩へ
強制オナニーを止めさせ、
ボクにとっては夢のような時間が終わった。

同級生の中で 1 人だけ
射精姿を披露してしまった友達だが、
どれほど恥ずかしい思いだっただろう…。

先輩のオナニーに強制的に付き合わされ、
友達や、後輩達の見ている中、シコシコと
恥ずかしいオナニー姿を晒し、
さらに射精までしてしまうとは……

大人になれば最高に快感を得られる
シチュエーションだが、
あの思春期の真っ只中にある時期、
どれほど恥ずかしかったかは、
計り知れない。

一方、残念なことに、
ボクのような万年補欠組には、このような名誉ある
公開オナニーの指令は与えられなかった。

やはり、誰の目から見ても魅力的なのは、
主力組のカラダであり、
そういうメンバーのオナニー姿であるからこそ、
みんな興味を抱くのだろう。

恐らく公開オナニーショーを提案してきた先輩も、
ボクと同じように男が性の対象だったのだと思われる。
現在、もう 30 前後のその先輩は結婚し、

少年野球に入っている息子がいるのだが、
きっと隠れゲイで、
多くの男性がそうであるように、
一生隠し通して生きていく道を選んだのかもしれない。



友達のチンポ品評と夜這い初夜

公開オナニーショーで見た同級生のチンポは、
陰毛も、しっかりと生えそろっており、
大きさや形、色など、それぞれ違いがあり
とても興奮させられた。

友達がオナニーを披露している間、
つられてフル勃起してしまっていたが、
湯けむりに隠され、また、
他にもつられ勃起している者が多く、
隠す必要も無かった。

ドMのボクにとっては、フル勃起した恥ずかしい姿を
堂々と晒せる最高の時間だったと言えるだろう。

白くてデカデカとしていたり、毛深かったりなど、
先輩を含めて、見た限りでは、
皆しっかりと先っぽまで皮を被った包茎ちんぽだった。

中1で自ら皮を剥き、
時々剥いて亀頭を洗って、剥き剥き体操をしていたボク。

勃起すると、先っぽの方は
少しだけ亀頭が顔を出していたボクにとって、

フル勃起してもしっかりと先っぽまで皮を被り、
そしてその先っぽの皮が窄まって、
ちょこんと細くなっている小学生スタイルのチンポには、
逆に興奮を憶えた。

それが、普段威張っていて怖い、
中3の先輩たちの真性包茎、
皮の先っぽの細い口先には余計にエロさを感じるのだった。

段々と楽しい夜が近づいてくる。

果たして翔太のチンポを激写することは可能だろうか。

そして公開オナニーを披露させられた主力組の、
平常時はどんな感じだろうか…？
そのすべてを写真に記録してオナニーのオカズにしよう。

そんな願望に心臓をバクバクさせ、
みんなが寝静まるを待ち、
チャンスをうかがう。

30分くらい仮眠を取ってから夜這いイタズラに取り組もう……

チュンチュン……

小鳥のさえずりと、窓から差し込む朝日のまぶしさに目を覚ました。

しまった…！！

仮眠のつもりがそのまま寝入ってしまったのである。

落胆しながら上体を起こし、
仕方が無いので、まだイビキをかいている友達の
朝立ちの様子を確認することにした。

あれ…？

なんだか股間に違和感…

あれ…あ！なんで…？

違和感に気づき自分の朝立ちした股間部に目をやると、

いつの間にか短パンが脱がされ、
トランクス一枚にされていたのだ…。

しかし、違和感はそれではなかった。

ボクは時々、寝ぼけて自分でパンツまで脱ぎ捨て、
フルチンで朝を迎えるという変なクセがあったからである。

合宿でそうならないよう、しっかりと短パンのヒモをきつく縛り、
寝ぼけて脱ごうとしても脱げないよう細工していたのだが、

寝ぼけた状態で、二重結びにしていた
短パンのヒモをほどいてしまったようだ…

ただ、ここでいう違和感とは、
そんなレベルのものではなかったのである…

…夢精…？

やばい、合宿でまさかの夢精をしてしまったのである。

ときどき疲れすぎてオナニーを怠っていると、
溜ってしまった精子を排出しようという生理現象により、
中2のその時期でも、よく夢精することがあった。

やばい！
みんなが起きる前に早く着替えて、
この精液のタププリついたトランクスを隠さないと！

クーラーで閉め切った室内には、明らかに精液の臭いが充満していた。

中2ともなれば、みんなオナニーをしているだけに、
この匂いは絶対に気付かれる！

パンツさえ換えていれば、犯人捜しが始まって、

自分じゃ無いと堂々と誤魔化せば良いのだ。

これを知るのはもう少し後だが、
夢精するときというのは、
実は夢だけで射精にいたるというより、
エッチな夢を見ながら、
無意識にパンツの上からおちんちんを刺激して、
射精に至っていることが多い。

高校での合宿の話だが、
隣で寝ていた友達が、
パンツの上から自分のおちんちんを刺激して、
射精したあと、ビクビクして飛び起き、
あたふたする姿を目撃したことがある。

きっと昨日の夜のお風呂場での先輩のオナニー、
射精する姿、
そして同級生で主力メンバーのオナニー姿、
そんな恥ずかしい姿を見てしまい、
夢精に至ったのだと理解したのであった。

合宿・夜這いイタズラ2夜目 その1

2日目の合宿の予定は
午前中、別の中学と交流試合、

そして午後も軽い練習が組まれていた。

ボク達のような万年補欠グループは、後輩達に応援歌を教えて、
ほとんど遊んでいる感じだった。

一方、レギュラー組は、午前中の練習試合、
午後の練習、

暑い中、なかなかの体力の消耗だったはずだ。

実際、補欠組の元気ぶりに比べ、
主力組はテンションも低く、
次の日の試合本番に向けた緊張もあり、口数は少なかった。

昨日に引き続き、お風呂での公開オナニーショーがあると
期待していたボクだったが、
2日目からは学年ごとに淡々とお風呂に入って、食べて寝るだけ…

監督は、大会初日は
第2試合（10時30分開始）だから、
疲れは取れると思ってのメニューだったようだが、

しかしレギュラーメンバーにとっては、
炎天下での体力の消耗は予想以上に厳しかったようだ。

ボクら補欠メンバーも、そんなピリピリとした空気感に気を遣い、
騒ぐこと無く眠りに付くのがだった。

昨日の失態を冒してはならない！

今日は昼間っから、夜の作戦に向けての体力を温存して置いた。

寝る布団の位置は最高だ。

小学校から同じチームに所属していたこともあり、
キャプテンの翔太とは、普段から仲も良く、
帰る方向が同じで、一緒に帰る仲だった。
自然なかたちで隣の位置をキープ出来たのである。

部屋の割り当ても、
ターゲットとしては申し分の無い主力メンバー達が揃っていた。

ただ一人、ボクにとってはなんの興味も持てない太地を除いては…

そういう時にだけは、『まじでコイツじゃまだし…』

そう思えてならなかった。

『お前の代わりに、別の仲の良い補欠メンバーが入れば…』

本当に疎ましく感じるのだった。

太地とボクを除いたメンバー達は、皆、主力組だ。

炎天下の中、グラウンドで疲労困憊……

横になるとすぐにイビキをかいて爆睡し始めた。

昨夜は自分も爆睡してしまい、
そんな友達の寝息、イビキすら聞くことは出来なかった。

カワイイ顔した友達、
カッコいい顔つきの友達…、
そんな彼らの寝息、
憧れを抱くように接している
主力メンバー達のあどけない
寝顔だけでも
興奮で勃起してきた。

カワイイ顔をしているのに、
思いっきりイビキが男らしく響く友達…
勇輝君…

口も半開きし、だらしなくヨダレを垂らしている。

中学生にもなってヨダレを垂らしているなんて、
なんて可愛いんだろう…



そう思うと、思わずそっと顔を近づけ、軽く唇と唇を触れてみた。

ビビッと、全身に快感が走り抜ける。

最高！

こんなチャンスをどれだけ待ちわびたことか。

ヨダレで濡れた唇に触れるようにして
何度か接吻を楽しみ、
そして、
普段の部活での凜々しく、
やんちゃな男の子！
という表情と、
このあどけない寝顔とのコントラストに胸を躍らせた。

この寝顔も写真に収めたいところだが、

さすがに顔に向かってフラッシュを焚けば起きてしまうだろう…



軽く股間の膨らみを確かめる。

気付かれないか、表情を確認しつつ、
優しいタッチで、おちんちんの輪郭を
指先でなぞり、
軽く摘まんでみるのだ。

彼は昨夜のお風呂場では公開オナニー
に参加していないため、
はっきりとおちんちんを確かめるのは
中学ではこれが最初になる。

慎重に、少しずつ股間への刺激や、
金玉へのタッチを試みながら、

表情の変化を確認する。

大丈夫そうだ…

ドキドキしながら、バッグの奥に忍ばせて置いたデジカメを取りに向い、
ついでに他のメンバーの寝姿、そして寝顔を確認する。

その中には、公開オナニーで、フル勃起姿を披露させられた雄星もいた。

雄星の平常時ってどんな感じかな…

そう胸を膨らませつつも、まずは優先順位を付けていこう。

そうっと自分の布団に戻り、
もう一度、カワイイヨダレを垂らした唇に接吻をして、
熟睡を確認した後、待望のおちんちん撮影へと臨む。

勇輝(ユウキ) 君という、寝顔が幼顔の友達、
果たしてユウキちゃんはどうな姿を見せてくれるだろうか…



ドキドキ…ドキドキ…

軽く短パンを掴まんで持ち上げ、表情を確かめる。

それを繰り返しつつ、徐々におちんちんゾーンへ近づいていく。

上の短パン（バスパン）は、ヒモがチョウチョ結びで締まっていたが、それをゆっくりと解くと、バスパンのゴムはほぼ抵抗を感じられないほどゆるゆるの為、楽に下げることが出来た。

バスパンを十分な位置まで下げ、トランクス全体が見える状態にする。

トランクスの前開き部分のボタンを外し、開いてみる。

…バクン！…バクン！

心臓の鼓動が高鳴る。

トランクスの前開きの中に、勇輝君の大切な肉の塊がハッキリと確認出来る。

その前開きを最大限に開き、指を差し込んで、プニプニッとした感触を確かめる。

柔らかい…、ぷにぷに…

そして肉棒の輪郭を確かめながらつまみ出してみた。

ポニョ～ん…

なんという興奮だろうか…！

野球部の主力級の友達、昼間の、ヤンチャで堂々とした、



ときどき憎らしいほどの自信に満ちた表情、
態度を取っている同級生、勇輝くんの恥ずかしいおちんちんが…

なんて、弱々しく、力ない恥ずかしい姿だろうか…

こんな恥ずかしいおちんちん姿を、まさか、
冴えない補欠メンバーのボクにイタズラされ、
観察されているなんて…

それどころか、
この恥ずかしい姿をデジカメで記録されるのだから…

まずは、そのトランクスの前開きから、
平常時のカワイイ肉棒を引き出した状態をアップで撮影してみる。

パシャ!!

暗い室内を強烈なフラッシュが照らす。

ヤバい!

予想以上の強烈なフラッシュに驚き、
ボクは慌ててみんなの様子を確かめた…

ドキドキ…

どうやら大丈夫そうだ…

次はもっと慎重に…

そう思いつつ、小さなハンドタオルを使って
フラッシュが不必要に飛び散らないよう工夫して撮影してみた。

良い感じだ。

さっきとは違い、室内を強烈にフラッシュが照らすのは避けられそうだ。

要領を得たボクは、何度も納得のいく写真が撮れるまで、
顔から足先までが納まるよう撮影してみた。

どうやら心配とはよそに、
フラッシュの一瞬の光は、
目を覚ますほどの影響が無いことが確認出来た。

次に脱がしに取り掛かった。

急がねば…

ターゲットは一人では無い。

最大の目的は当然ながら翔太だ。

勇輝君にばかり時間をかけているわけにはいかない。

合宿・夜這いイタズラ2夜目 その2

要領を得たボクは、ジリジリと慎重にトランクスをズリ下ろしていき、肉棒だけで無く、金玉袋全体までがしっかりと確認出来る状態にすると、念入りに何枚も、勇輝君の恥ずかしい写真を撮っていった。

先っぽの皮の余り具合が最高だ。

ボクはその時、

『そうか…おちんちんの皮って、剥けていないからこそエロいんだ…』

そのことに気付くのだった。

安易に皮を剥くことを急ぎ、剥き剥き体操を始め、皮の先っぽがだぶだぶに開いてしまっている自分を恥じた。

平常時のおちんちんをあらゆる角度から十分に撮影し、次に少しずつ刺激を加え始める。

刺激に敏感な年頃のおちんちは、軽くクニクニと摘まんだり、軽めに扱いたり、皮先をクリクリと刺激すると、みるみるボッキし始めた。

なんていうエロさだろうか…！

みんな同じだと思っていたおちんちんだが、



やはり全然違うのが確認出来た。

自分のおちんちんが平均の姿だと思うものだが、

どれだけ違うか、また普段の友達の印象からのギャップなど…
そういうもので興奮の度合いが高まる。

勇輝君のおちんちん…

見た目通り、スラッとしていて、細く、
ビンビンに固く、
そして亀頭の部分がものすごくデカイ…
パンパンに膨らんでいてエロい…。

そして先っぽの皮の口先の窄まり具合がとてもエロエロだ。

竿の部分を握ってみる。

中2の大きさとしては、きっと平均的な長さだろうか…？

握ると、亀頭の先っぽまでが3cm程度余る。

後から長さを正確に検証出来るよう、
自分の手を横に並べて撮影し、
勇輝君のおちんちんは11cmくらいだと判明した。

陰毛の生え方も可愛かった。

勇輝君の細く、
先っぽだけぷっくりと亀頭がデカイ
恥ずかしいほど変な形のおちんちんの陰毛は、
あまり横には広がっておらず、
コンパクトに生えそろう、

そして毛も細くて密度低めだった。

柔らかい金玉袋には毛は生えていない。

もう十分だろう。

このままシコシコと扱いて射精する姿を見たい気持ちを抑え、
最後にパクッとおちんちんを口に含み、
先っぽチュッパチャプスのような変な形の
亀頭の膨らみを舌でペロペロと舐めまわしてあげた。

勇輝君のおちんちんの先っぽからは、
オシッコの味と混じった、先走りの味がした。

ゆっくりとパンツと短パンを戻し、ヒモもしっかり元通りに結んだ。

そして最後にヨダレを垂れ流す勇輝君の唇にキスをしてあげた。

まさか、自分のおちんちんを舐めまわしたボクの舌先で、
半開きの唇の内側を舐めまわされたなんて気付くはずも無い…。

となりで気持ちよさそうに熟睡する翔太の寝顔を眺める。

直ぐにでも翔太に取りかかりたいが…

ボクは好物は最後にとっておくタイプなのだ。

次のターゲットからは、もっと簡略化し、
おちんちんの平常時の姿と、勃起姿を、
顔入り写真で撮影するだけにしておこう。

そう決意しながらも、つついフニャチン状態の
主力級の友達のおちんちんを口に含み、

舌先でペロペロと刺激を与え、
口の中で勃起して行く感触を憶えてしまうと
なかなかその誘惑に勝つことは出来ない。

次のターゲットは竹志くん。



可愛い顔して…
ド変態ちゃんぽ…



根元が太く、タケノコ型のチンポ…。

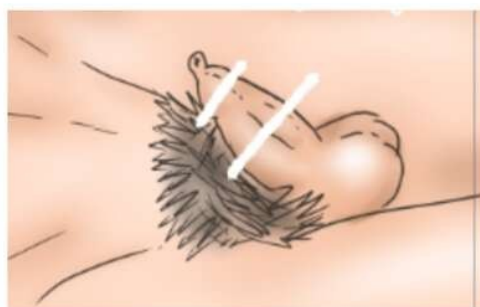
平常時では、
完全にドリチンのような
恥ずかしいチンポ姿…。

勃起しても先っぽの亀頭部分が
とても小さく、
今思うと、きっとセックスをしても
女性を満足させることの出来る形では無いと思える。



今日から君のあだ名は竹の子太郎だ…へへへ…

握ってみると、根元の部分が太すぎて、
指が届かなかった。
逆に、亀頭部分はとても小さく、
ピンピンにフル勃起状態なのに、
横幅も2 cmあるだろうか…？



こんなチンポをもしケツに突っ込まれ、最後まで押し込まれたら…
一気にケツがガバガバに開いて戻らなくなりそうだ。

そして次に強制オナニーショーに参加させられた雄星（ゆうせい）のチンポだ。

普段はオトボケキャラだが、
下ネタはニガテで、とても人前でオナニーを
披露するようなキャラでは無い。

まさかの先輩からの命令で、
同級生の前でオナニー姿を晒し、
それどころか
中1の後輩達にまで恥ずかしい姿を
見られてしまうなんて、
どれほど屈辱的で、恥ずかしかっただろう…



もちろん射精まではいかなかったが、
途中までは、本気モードでオナニーに臨んでいたため、
まさかの強制終了で
生殺し状態だったとも考えられるが…。

いずれにせよ、小学校からボク達学年の4番バッターであり、
とても魅力的な同級生である。

お風呂場でのフル勃起チンポから想像できたが、
やはり平常時も予想通りの美チンだ。

皮かぶりの平常時の姿がなんとも美しく、理想的な竿と金玉のバランスだと感じた。

金玉袋にも少しだけ毛が生えており、大人を感じさせ、その男らしさに興奮を覚えた。

口に含んでハムハムしていると、ものすごい勢いで勃起してきた。

さらに先走りの量がハンパないのである。

カッコいい友達の大量の先走り液の味に全身に快感が走り抜けていく。

ああ…やばい…これが雄星の精液の味…はあああ…ペロペロ…

もともと唾液分泌の多いボクは、雄星のおちんちんを唾液たっぷりの口の中に含みながら、ペロペロと、先っぽのスッポンの口先のような皮の部分を上下左右にベロンベロンと大胆に舐めまわす。

あまりにも大量に先走りを分泌し続けるため、つついボクは調子に乗ってしまい、時間を忘れたようにハムハム、ペロペロをしていた時だった。

突然、グイッと雄星のチンポが硬くなったと思った瞬間、

どびゅ！どびゅ！どびゅ！どびゅ！！

と、ボクの口の中に大量に射精して来たのである。

うわ！



雄星(ゆうせい)

いつもはオトボケキャラだが、試合となると別人のように凛々しく、男らしい表情になる。

スゴイ量だ！！

驚き、そして口の中に大量に排出された雄星の濃い精液、
その味に戸惑ったものの、
ティッシュなどを準備していたわけでも無く、

また、射精によって、雄星が飛び起きる可能性もあった為、
とっさの判断で、この大量の濃い
“ゆうせい精液”
をゴックンと一気に飲み込み、
さっとパンツを戻して寝たふりをした。

ドキドキ…ドキドキ…

しばらく寝たふりを決め込み、
射精した雄星が飛び起きないか様子を観察していたが、
大丈夫そうだ…

気を取り直し、短パンの上からちょんちょんと、
雄星のおちんちんをタッチして反応を確かめる。

気持ち良く射精して満足なのか、いつものだらしない
おとぼけキャラの雄星の顔で気持ちよさそうに熟睡中だ。

射精後のチンポの様子を撮影するため
グイッとパンツを下げ、
まだ半勃起で、ボクの唾液で湿った
美チンの様子をデジカメに収めた。

喉には、とっさに飲み込んでしまった雄星の精液が
引っかかったような、
イヤ～な感触が残り、そして口の中にも、
先走りとは違った、
濃い、本物の精液のドロツとした舌触り、

そして味が残っていた。

ド変態なボクは、チングリ返しでオナニーし、
自分の口に直接射精して
精液を味わったことがあった。

うえ〜！と、吐きそうな味なのだが、

自分で自分の精液を口の中に射精し、
それを飲み込むというド変態な行為が、
自分自身を恥辱するように感じ、
そういうオナニーを時々楽しむのだった。

性癖的には当然ドM気質だったのである。

その自分の精液の味とは全く違う雄星の精液の味…



野球の上手い、憧れを感じる存在の一人、
僕らの4番バッター
雄星の精液の味…

その男らしい、
濃い精液を飲み込むと、
雄星の一部を貰ったような、
ボクに新たな力を与えてくれる…
そんな妄想に股間が熱くなった。



合宿・夜這いイタズラ2夜目 その3 白ブリーフの翔太君

そして遂に大本命！

少年野球時代からの大スター翔太のちんぽを楽しむ番だ！！

小学校最後に見てから、どれくらい成長しているだろうか…

翔太を想像するとき、あの無毛で可愛かった小さな小学生のチンポ姿…



小さくも、プリッと引き締まり、突きだした可愛いケツ！

一方で中2になり、
体つきもだいぶ成長した今のおちんちんを色々と妄想した。

そう言えば翔太にそっくりなお父さんのチンポも見ただこと無かったな…

この翔太の今のおちんぽを見れば、
なんだかあのカッコいいお父さんのチンポ姿も垣間見れるような気がした。

寝顔を確認してみる。

しっかりと口を閉じ、鼻で息をしている。

幼さを残しつつも、凜々しく、
まさに男子にとっては
憧れの存在だ。

白ブリーフ…、今となっては絶滅してしまい、
特別なプレイでしか穿かれることが
無くなったが、
昭和から平成初期までは、普通に穿かれていた下着だ。



ボクらの世代は、
白ブリーフとトランクス比率は、
特に部活生に限って言えば、白ブリーフの方が優勢だった。

理由は簡単で、当時のバレーボール、サッカーなど
競技人口の多いスポーツの
ユニフォームの
短パンの丈の長さがある。

今では考えられない丈の短パンを穿くと、
トランクスではもろにハミチンしてしまう。

また、学校指定の体育着の短パンも同じく
かなり丈が短かった。
その為、体育座りや、あぐらをかいていると、
トランクスメンバーはもろに横チン、
ハミチンしてしまうのである。

野球部の場合、あの長ズボンなので
大人ぶって、トランクスを穿くメンバーも多かった。

白ブリーフ全盛からトランクスへの移行期において、
中学生にとっては、
何となくトランクスの方が大人っぽく感じ、
カッコいいという錯覚を覚えていたのかもしれない。

ボクたちの野球部では
一つ上の先輩達は9割が白ブリーフ派だった。

トランクスを穿いていたのは、補欠のデブメンバー2、3人程度だ。

ボクの中2メンバーに関していえば、
主力級メンバーは白ブリーフ、
部活が無いときなど、
ときどき気分でトランクスを試してみる…
そんな感じだった気がする。

当時としては、今とは違い、
トランクスの方が珍しく、
エロく感じたのだった。

理由はもちろんおちんちんの開放感である。

ブランブランと自由に垂れ下がる感覚、
普段白ブリーフだと、
ときどきトランクスを学校に穿いてくると、
なんだかノーパンのようなエロさを楽しめた。

ドMのボクの場合、体育の時間、
短い丈の体育着からわざとハミチンし、
気付いていないフリをして、
密かにクラスメイトに
恥辱される快感を楽しんでいた。

帰宅部や、文化系メンバーにとっては、
たとえ補欠であっても、野球部メンバーは少し上に見えるもので、

そんな野球部の友達の前チンは最高のオカズだっただろう。

見られていると勃起して来たのだが、
その半勃起気味のおちんちんの棒に、
視線を感じると、気付かないフリをして
わざと見えるように股間を開き、
恥辱プレイを楽しんでいた。

さあ、やっと大本命の翔太のおちんちんを楽しむときがやって来た。

1年と半年の間に、あの小学校時代の可愛かったおちんちんは、
どれくらい成長しているだろうか。

体つきとしては、決して大きい方とは言えない。
身長は 160 cm ちょい、
顔つきも童顔寄りの翔太だが、

体つきは運動神経の良さを感じさせる、
筋肉の整った、完璧なカラダのバランスで、
制服姿、体育着姿、
そして野球のユニフォーム姿は特に、
誰の目にも惚れ惚れと映る魅力を放っていた。

高校生になると、野球部の体型は、
異常にケツだけがデカく、
真四角なケツ筋肉で、独特な異様さ、
そして別のエロさを示すのだが、

まだ中2という成長記真っ只中、
陸上の中距離、または水泳部のように
非常にバランスの取れた美しい体つきであった。

翔太、小学校からのチームメイト…。

近くて遠い、憧れのスター選手…

他校からも人気で有名人だ。
県内で野球をやっている同じ年頃の男子なら、
知らないものはいないほど有名人である。

そんな女子だけで無く、
男子からも人気者の翔太の恥ずかしい姿……

これからボクは夜這い盗撮し、そしてイタズラするのである…。

表情をじっくり眺める。

やはり寝顔はあどけなく、とても同級生とは思えないほど可愛い。

昼間の真剣な野球に取り組む姿、
凛々しい自信に満ちあふれた表情とのコントラストが
なんとも胸をときめかせてくれる。

翔太のファーストキスを奪ってあげよう。

翔太は、野球一筋、
野球部というのは、恋愛ベタが多く、
ほとんどが高3になっても童貞が多い。

今の時代はだいぶ変わってきているが、
ボクらの時代、
野球に打ち込んできた球児たちというのは、
女にうつつを抜かすことは恥だと教え込まれていたものだ。

ましてや中2である。

当然ながら彼女などおらず、
女子にはキャーキャーと騒がれ、恥ずかしそうに頬を赤くし、
まんざらでも無さそうに
はにかむ翔太、
そんな球児のファーストキスを、

こんなボクが奪ってしまうのである。

カワイイ寝顔…、そして柔らかそうな唇に近づいていく。

鼻筋が真っ直ぐだが、丸い鼻先が、
美形少年の魅力を引き立ててくれる。

穢れを知らない美しく優しい寝顔、
そして寝息を感じながらそっと唇を重ねるのだ。

ビビビ！！

全身に快感が走り抜け、もう股間はビンビンで、
キスだけでも射精してしまいそうである。

しかし、ここまで欲張って疲れていたこともあり、
余計な体力を消耗する前に、早く大好きな翔太の、
一番恥ずかしいおちんちん姿を写真に収め、
そしてハムハムに時間を割かなければ！

そう気を取り直し、震える手でゆっくりと短パンをずらしていく。

白ブリーフ派の翔太、
中3のスタメンの先輩達がそうであるように、
理由は単純に動きやすさなのかもしれないが、

脱がすのが難しい白ブリーフのため、
これまで以上に慎重に取り組まねば…！

ゆっくりと短パンをずらし、
白ブリーフ全体が露になる状態まで来た。

翔太のブリーフはグンゼの160サイズ

このデザインは小学生っぽく、中学になると恥ずかしくて

無地のデザインを選び始めるが、
父子家庭の翔太の場合、父親が買ってきたものを
文句を言わずに穿いているのだろう。



翔太そっくりなお父さん…

とても仲良しな父子だ。

そしておへその上まで上着をめくり上げ、
翔太の白ブリーフ姿と、美しいおへそ周り、
そして当然ながら、顔まで含めた写真を撮影した。

すぐに液晶画面で確認し、
もうちょいエロさが欲しくなって、上着を思いっきりめくり上げ、
乳首だけでなく、鎖骨までが見えるくらいまで上着をめくり上げる。

なんてエロい寝姿だろう……。

パシャ！パシャ！パシャ！

めくり上げた服はそのまま、
お腹が冷えないよう、そっと毛布を腹部に掛け、

次は最難関の白ブリーフだ…



合宿・夜這いイタズラ2夜目 その4 翔太の恥ずかしいおちんちん姿

本当は前開きの部分から
おちんちんの棒だけをちょこんと出した写真も欲しかった。

しかし万が一余計なことをして目を覚まされたら、
貴重なチャンスを台無しにしてしまう。

なので白ブリーフの上から、軽くプニプニとおちんちんの膨らみを確認し、
その刺激に反応しないか表情を確かめ、
そうっと、白ブリーフのゴムをつまみ上げる。

当然、真っ暗で見えないが、
そのめくり上げたパンツの股間部にレンズを向け、
フラッシュ撮影してみた。

陰毛！陰毛！！

どれくらい生えているだろうか？

ワクワクしながら液晶画面で確認するが、

残念！

ピンボケだった。

それでも、翔太の柔らかそうな明るい肌の色が
美しい色で記録されている。

翔太はどちらかといえば肌は色白だった。

あの小学校時代の、まっ白でプリプリッとしたお尻、
そして短パンの日焼けあとがくっきりと付いた様子。

日が当らずまっ白な股間部にちょこんと、可愛らしくくっ付いていた、子供らしい小さなおちんちん…

当時は、それほどエロさを感じなかったのに、あの小さかったチンポが、中学2年になってどれくらい成長したのかを想像し、その興奮で手が震えてくるのだった。

翔太に陰毛が生えていると考えただけでも先っぽからダラダラと先走りが零れ続けるのを感じる。

今度こそ失敗しないよう、さっきよりもさらに大きく白ブリーフのゴムを持ち上げ、少しだけグイッと下げて、パシャリ！

…確認してみる。

ドキドキ…ドキドキ……あれ…？

……あれ？

これって、おちんちんの、肉棒の付け根だよな…？

え？

ボクは少しだけ混乱しながらも、この写真に記録された翔太の股間部を確かめるため、次は、ゆっくりと左右からジリジリと白ブリーフをズリ下げていき、

ちょうどおちんちんの付け根部分にゴムが来るところまで白ブリーフを下げると、

カメラを構えた。

ここまでズリ下げると、思いっきりゴムを下げて、
おちんちん全体を撮影可能だ。

間違って、ゴムと陰毛を同時につかんで引っ張ってしまわないよう、
慎重に白ブリーフのゴムをつまみ上げ、グイッと、引き下げた。

！！！？

うわ！

その予想外の翔太のおちんちん姿を、

パシャリ！パシャリ！パシャ！パシャ！！

っと、何枚も撮影したのだ。

すごい…！

なんと驚くことに、

翔太は、もう中2だというのに…

まだ産毛すら生えておらず、

まるで小学生のおちんちんのよう、ツルツルの無毛だったのである…

エロい…

さっきまで、当たり前のように陰毛が生えそろった
同級生達のおちんちんを
さんざん観察してきたこともあり、

このツルツルの無毛ちんぽが、
逆に変態的で、
とても興奮させられるのだった。

剃ってるのか…？ドキドキ…ドキドキ…



しかし、驚きはそれだけでは無かったのである…

小さい…

異常に小さい…

さっき観察した同級生達のチンポだって、
確かに平常時の大きさは小さかったと言える。

しかも毛深い友達の場合、
陰毛に隠れ、さらに小さく見えてもいたのだが、

それと比べても…これは……

さらに毛が生えていない（剃っている？）ことで、
全体像が露になっており、

その異常な小ささがハッキリと見て取れたのである。

ス…スゴイ…

まさか、スーパースターの翔太のチンポがこんなに小さいなんて…

小学校のスーパー銭湯で見たときの状態と同じ？

いや…なんだかあのときと比べても、異常に小さい気がする…

もしかして、あのときは半勃起気味だったのか？

そう思えるほど金玉袋は小さく、そしておちんちんは、
細く、先っぽの余った皮がちょこんと突きだし、

他の同級生達のチンポが、ダランと垂れ下がっていたのに対し、

翔太のおちんちんは、あまりにも短かすぎる為か、

ちょこんと上向きに突き出したような形だったのである…

あまりの粗チンぷり、そして小学生そのものの無毛のパイパン姿。

.....

そうか！

ブリーフを穿いていたから、締め付けられて、
一時的にこんなみっともない
粗チンっぷりを示しているんだ！！

そうに違いない！

しかし
こんな恥ずかしいおちんちん姿を晒す翔太の姿を
写真に収めない手はない！

白ブリーフをゆっくりズリズリと下げていき、

事もあるに、調子に乗りすぎたボクは、
翔太のパンツを完全に脱がし取り、

下半身、丸裸に脱がしてしまったのである。

その上で上半身に掛けて置いた毛布を取り去った。

すごい姿だ。

みんなのアイドル、スーパースターの野球少年の恥ずかしい姿…

こんなド恥ずかしい半・全裸姿、
もちろん顔入り、粗チン姿を見られるなんて！

パシャリ！パシャリ！と、
何枚も顔入りの恥ずかしい姿、
おちんちんも様々な角度から撮影を繰り返す。

さらに興奮しすぎたボクは、さらにエロく…！と

翔太の上着を上へ上へとめくり上げるうち、
ついには、ほぼ全裸状態にしてしまったのである。
それでも、両腕にだけは掛けて置いたが、
それが逆に、翔太を全裸にし、両手首を縛り上げたようにも見え、
さらに恥辱感が高まるのだ。



思春期少年の興奮の高まりとは
恐ろしいものだ。

こんな同級生を全裸姿にし、もし起きてしまったら
当然タダでは済まないどころか、もう学校にも居れなくなるだろう。

しかしここまでの悪戯によって興奮が最高潮まで高まり、

もう翔太のエロい姿さえ見れば、全てを失ってもよいような
そんな気持ちになってしまっていた。

応援メンバーのボクらとは違い、特にスタメンレギュラーの翔太は
疲れ切って爆睡なのである。

そんな同級生、大切なボクらのキャプテンを恥ずかしい姿にし、

そして決して同級生に見られてはならない
小学生のような無毛（パイパン）チンポ、そして
異常な粗チンを晒した全裸写真をパシャパシャと
遠慮無く撮影し続ける。

きっと剃ってるんだ…。

そう思い、この驚くほど小さなキャプテンの
おちんちんの付け根部分を指で撫でる。

ざらざらとした感触は一切無く、
プニプニとした赤ちゃんの皮膚のような
柔らかい感触が気持ちイイ。

本当にまだ生えていないんだ……。

スゲえ…

指触りのツルツル感もそうだが、

この小学生並み…、小学生以下の粗チンを見れば、
生えていないことは納得がいく気がした。

次は、勃起させてみよう。

また、お腹が冷えないよう毛布を掛け、
この無毛の小学生以下の可哀想なちんぽの
先っぽの皮を摘まんで引っ張って見た。

柔らかくてカワイイ…

細く窄まり、1 c mほどちょこんと垂れ下がっている皮先を摘まみ、
クリクリと感触を楽しむ。

ああ…、ボクはなんて馬鹿なんだろう…。

こんなに魅力的な包茎の皮先を失ってしまうなんて…

当然のことながら、翔太の見事なほどに細く窄まった包皮は、
どんなに剥こうとしても剥けない。

ボクが失った、この魅力的な細い口先を愛おしむように指で摘まみ、
それを引っ張って伸しては、その恥ずかしい様子を
しっかりと撮影してあげた。

金玉袋…ちっちゃ！

冷えて縮こまったわけでも無く、
柔らかくタラ〜ンと垂れ下がっているにも関わらず、
驚くほど小さな金玉袋だった。

睪丸の大きさを確かめようと、指で摘まんで
その存在を探してみるのだが、

あまりに小さく、果たしてこれは睪丸なのか？

それとも、何か内部の別の器官なのか？

それが判別出来ないほど小さなシコリが1個だけ確認できた。

しかし残念ながら、もう一個の睪丸は触診では確認出来なかった。

それがどういう意味なのかを知るのは、
ボクが大人になってからであるが、

つまり、翔太のおちんちんの小ささは、
治療が必要なレベルだったのである。

そんなことなど知るはずの無い中2のボクにとって、

憧れの存在である翔太の恥ずかしい秘密を握ったという
異常な興奮に胸が躍るのだった。

少しずつ刺激に反応して膨らんでくるおちんちん…

予想通りの小ささだ…フッフ…小さい…なんて小ささだ……プププ…

もう、興奮と可笑しさに笑いが止まらない。

スゴイ…

翔太、超小っちゃい…プププッ…

デベソだし…

翔太はデベソをととても気にしている。

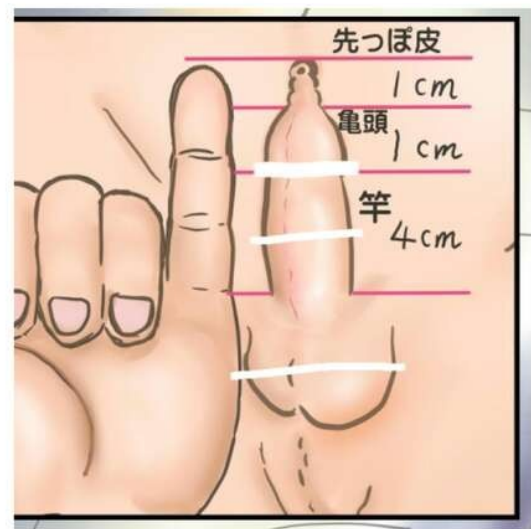
そんな身体的なコンプレックスを隠す為、
みんな知っているというのに
着替えの時にもデベソを見られないよう
気にしている様子が頭に浮かんだ。

そしてこれまで当たり前と思っていた、
野球が上手いからと、
調子に乗っている部分が、
急におかしく感じ始めていた。

声が出ないよう必死で笑いを堪えながら、
カッコいい、運動神経抜群の
均整の取れた体つきに不釣り合いな、

まるで、
小指を突き立てただけのような
おちんちんを恥辱する。

フル勃起なのに驚くほど小さな
恥ずかしいおちんちん姿を晒す翔太の
顔入り全裸姿を写真に収め、
次の作業に移るため、上体に毛布を掛けた。





次は、翔太のこのカワイイおちんちんを口で味わう番だ。

さっきまでの同級生達のチンポ…

口に全部を含むことが出来ないほどのサイズ感だったが…

翔太のフル勃起したおちんちんは、パクリと全体を口に含んでも、

喉の奥に到達するどころか、半分くらいまでしか行かない。

なんて小さいんだろう…

実際にボクの小指を並べ、比較写真を撮って置いた。

後から長さはフル勃起で5 c mだと確認出来た。

そして平常時は2 c m前後だったのである。

もう笑いが込み上げて来る。

果たして、翔太は射精なんてするのだろうか？

そんなことを考えながら、
小さくも必死で存在を示そうと固くなっている
翔太の粗チンを口の中の唾液の海の中に含みながら、

ベロンベロン！くちゃん！クチャクチャ

と、エロイ音を立てながら舐めまわしてあげる。

なかなか射精しそうにないが、
それでも気持ちよさそうに、
時々、小指レベルがピクンピクン！と
悶えるように力強くうごめく。

少し顎が疲れたので休憩で口から解放し、どんな様子か確認すると、

快感の刺激に反応し、もともと異常に小さかった金玉袋が
完全に無くなっており、
翔太の股間は、ただ、1本の小さな突起物が突きだしただけの、
さらに滑稽な姿になっていたのである。

やばい…！

エロイ…エロすぎる…

もう興奮を抑えきれなくなったボクは、
さっとパンツを脱ぎ捨て、フル勃起した自分のおちんちんを握って、
刺激を与えながら、また翔太のおちんちんを口に含んだのである。

初めは横からしゃぶっていたが、
ビクンビクン！
と蠢^{うごめ}くものの、なかなか射精してくれないため、
翔太の足に跨がるようにして、まるで犬の様な態勢でケツ丸出し、
そしてケツの穴も開ききったような恥ずかしい姿で
翔太のおちんちんを
ベロンベロン！
と、しゃぶり続けたのである。

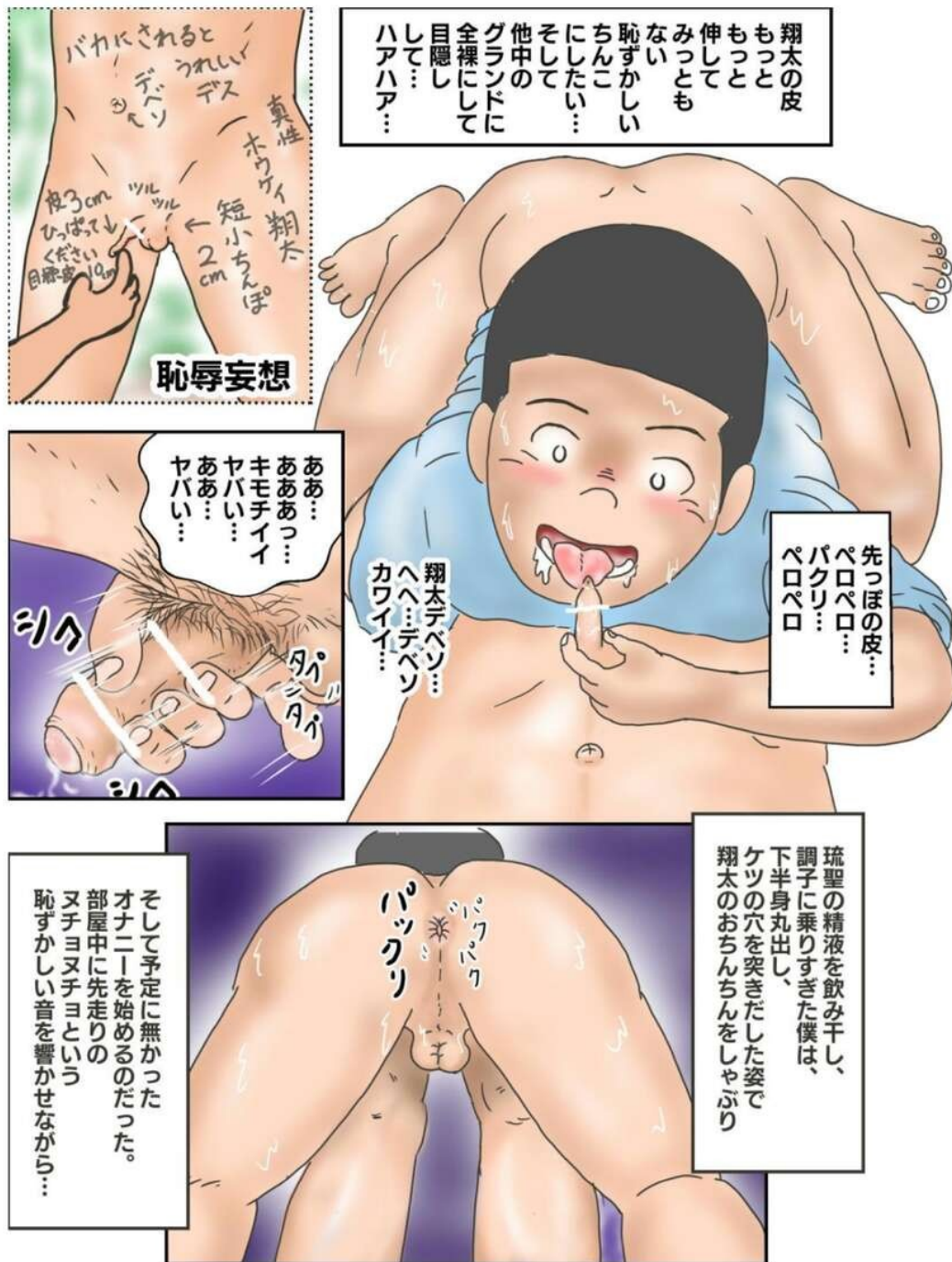
翔太のおちんちんの先っぽからは、
確かに快感の先走りのような
ヌルヌルの液体が分泌されていたのだが、
もうダメだ…
ボクの方の限界がやって来てしまった。

どびゅ！どびゅ！どびゅ！どびゅ！…

クビに掛けていたタオルをサッと手に取り、
大量に放出してしまった精液を受け止めた。

もう汗びっしょりだった…

初めの友達のチンポをイタズラして、



もう2時間近くは経っていたかもしれない。

射精とともに、一気に疲れが押し寄せてきた。

翔太は射精までイカせてあげることが出来なかった。

この小ささだ…

おそらく成長的に、まだ射精するほど
精子が製造されていないのかもしれない。

射精後の賢者タイムが訪れる。

表のスターの顔の裏に、

決して人に見せられない、
こんなにもおちんちんが小さいという
欠点を持った翔太が、
急激に可哀想に思えてくるのだった。

ひどいデベソ
中2でうぶ毛すら生えておらず、
驚くほどの粗チン…

この悲劇のヒーローを守ってあげたい…

そんな同情の気持ちが込み上げ、
これまで以上に翔太が愛おしく感じたのである。

翔太の秘密はボクだけの秘密にしておこう…

汗びっしょりで、もう十分に目的を果たしたボクは、
最後に翔太のおちんちんに口づけをし、
びっしょりとボクの唾液で濡れた
カワイイおちんちんを拭いていた。

その時だった！

背後に人の気配がしたのである！

一気に血の気が引いていく。

しまった！

つい自分の快感に溺れてしまい、周りへの注意を怠ってしまっていたのだ！

誰か、起こしてしまったようだ……

恐る恐る背後に視線を送る。

……

なんとそこにいたのは、

あの根暗なチームメイト、太地だったのである……

根暗な目撃者…

終わった…

もう終わった…

頭が真っ白になり、
血の気が引いて気を失いそうである。

それどころか、心臓が止まってしまうほうが
先かもしれない…

いずれにせよ、もう終わった…

そんなボクの様子に当然気付きながら、

「翔太は射精しなかったの…？」



そう不敵な笑みを浮かべながら
ささやき、近づいてきた。

すでに縮みきって、さらにボクの唾液によって冷やされ、
初めよりもさらに小さく、
恥ずかしい姿の翔太のおちんちんを観察する。

「うわぁ…すごい…」

ボクと同じ驚き…いや、
今の姿は、さっきよりもさらに驚くほど粗チンである。

「翔太……。すごい……」

どのタイミングから見られていたんだ？

もしかして初めから…？

位置的には、ボクの背後…

そんな…

ボクがケツの穴をまる開き状態で、
犬のような恥ずかしい態勢、
痴態を晒し、
そして同級生のチンポを口に咥え、ペチヨペチヨとしゃぶりながら、
自分のちんぽをシゴク姿を見られていたなんて…

青ざめて、
下半身をさらけ出したまま、
金縛りに遭ったように固まるボクの、
徐々に縮こまっていく股間に目をやり、
そして覗き込むように目を見つめて来た。

「見せて…」

そう言って、ボクの手からタオルを取った。

そこに大量に放出された、射精後間もない、
まだ温かいヌルヌルの精液……

ボクの遺伝子情報が入っている
恥ずかしい液体をじっくりと観察し、
ニタ〜ッと笑みを浮かべている。

もうボクは固まってなにも考えられない。

太地（たいち）は、
ボクの恥ずかしい精液を鼻に近づけ、
クンクンと匂いを嗅ぎ始める。

「うっ！」

一瞬顔をしかめた。

グサリ…

こんなキモいやツに自分の大切な精液を辱められたようで
とても惨めな気分になった。

そんなボクに構うこと無く何度も鼻に近づけ、
クンクンと匂いを嗅いでは、鼻をゆがめ、ボクの顔を覗き込むのだ。

「竜太君の精子の匂い…フッフ…」

そう小さくつぶやき、

ペロリ！

「うわっ！」

ボクは思わず声をあげてしまった。

慌てて周りを見渡すが、大丈夫だ…、
みんな変わらず寝息を立てている。

「竜太君の精子の味…へへへ…」

そう言って、ニタ〜ッと笑い、突然、
すでに完全に縮みきったボクのおちんちんを触ってきたのである。

それには反射的に腰を引っ込め抵抗したが、
一瞬、キッとキツイ目で睨み付け、

『いいの？バラしても…？』

そう言っているように感じた。

その睨みをきかせたまま手を伸ばし、
ボクのおちんちんを握々したり、
モミモミしたり、
そして皮を引っ張ったかと思うと、
グイッと剥いてきたり、
もてあそ
弄^{もてあそ}び始めたのである。

これはきっと夢だ…、悪夢なんだ…

夢であってくれと願いながら、
自分のおちんちんが
太地に弄ばれている様子を見守るしか無かった。

「後でね…」

小さくそうつぶやくと、太地は目で合図を送ってきた。

『翔太に服着せてあげて…』

そう促しているのが分った。

ボクは半泣きで、自分自身は下半身丸出しのまま

ほぼ全裸姿にして辱めを与えていた翔太に服を着せてあげた。

こんなに美しい裸体、そして素直で幼さを残す
みんなの人気者、
翔太を辱めてしまったことに
大きな罪悪感、後悔に襲われた。

『翔太…ごめん……』

そして再び太地を見ると、ジェスチャーで

『上着も脱いで』

そう、全裸になるように指示してくる。

いつ他のメンバーも目を覚ますか分らない中、
逆らうことなど出来るはずの無いボクは上着も脱ぎ、
ひとり全裸姿にされた。

そしてさっきの犬のような体勢になるよう、
無言で指示してきた。

太地は、ボクのケツの穴をじっくり観察しているようだ。

恥ずかしい…

もう死にたい…

お尻の穴を左右に広げたり閉じたりを繰り返し、

そして絶望感で驚くほど縮こまった
ボクのおちんちんを握って、
後ろにグイッと引っ張ったりとイタズラを繰り返す。

まさか、こんな陰キャラ、
幽霊部員の太地に弱みを握られてしまうなんて…

そして、
誰にも見られたことなんて無いケツの穴を、
こんなふうに左右に開かれ、観察されてしまうなんて…

太地はボクのお尻の穴をグイグイ、パクパクと開きながら、
小さな声で何かつぶやいている。

ボクに何かを話しかけているのだろうか…？

絶望感と恐怖で頭が真っ白になり、
全裸姿、ケツを突きだした状態のまま、
ボクは
意識を失ってしまったのだった。

翌朝、
前日と同じく、窓からの朝日、
そして小鳥たちのさえずりによって目を覚ました。

その瞬間、全裸姿である事を思い出し、
慌てて飛び起きると、

あっ?!

いつの間にか服を着ていたのである…

ボクの精液を射精したタオルは？

周りを探すが見つからない…

まさか…

そう思い、太地の方を見る。

まだ寝ている。

太地の周りを見ても、ボクの精液を受け止めたタオルは無い。

今起きているのはボクだけだ。

混乱する頭を整理しよう…。

あれは夢だったのか…？

そうだ！カメラは？

慌ててカメラを探すが見当たらない…！

ヤバい！あれを他のヤツに見られでもしたらお終いだ！！

朝から心臓が止まりそうなほどバクバクし、カメラを探す。

毛布の下、布団の下など探すが見つからない。

絶望的な気持ちになりながら、
僅かな望みでカバンの中を確かめてみた。

あった！

他の人に見つからないよう、
自分しか分らない隠しポケットに入れて置いたのだが、
そのままそこにあったのである。

ああ…、よかった……

……

そうか…

昨日のことは、全部夢だったんだ……

初日と同じく、ボクはまた疲れて寝てしまい、

あんなエロイ夢を見てしまったんだ…

そう考えると、昨夜の信じられない出来事の全てが納得出来る気がした。

翔太のありえないほど小さなおちんちん…

他のメンバーのおちんちんだって、
風呂場で見たイメージが膨らんでいただけだったのだ…

よかった……

小学校から同じチームにしながら、
ずっと補欠のコンプレックスを抱えていたボクは、

主力である彼らに対し、
嫉妬のような感情を抱えていたのである。

だからあんな妄想の夢を見てしまったのだ…

それにしても、なんてエロい夢だったのだろうか。

そのエロさに興奮を覚えるものの、
予想外に夢精していないことは救いに感じた。

あれほどエロい夢を見れば絶対に夢精しているはずだ。

疲れもあるのだろう…

よし、次こそは絶対に起きて、主力メンバー達の
恥ずかしい姿をカメラに収めるぞ！

そう決意しながら、バッテリーの確認のため
電源を入れてみた。
まだ何も撮影されていないデジカメ。

何気なく再生ボタンを押してみた。

あっ！…あ…あああ…

そう…

現実逃避で安心しようと試みていたものの
当然ながら、あれは夢なんかでは無かったのである…

そこには、同級生達の恥ずかしい姿が収められていたのである。

その瞬間、
お尻の穴に鈍い痛みのような感覚があり、
急に水ゲリに襲われたようにプリプリッと少し漏らしてしまった。

慌ててトイレに駆け込み排出する。

お腹の痛みの割には全然出ない。

プリプリ…、ブッ…ブッ…

と、少しの水ゲリと空気だけしか出ない。

肛門が少しだけヒリヒリ焼けるような痛みがあった。

これ以上粘っても出ないと思い、お尻を拭き、

便器の中を確認した。

なんだ…これ…

もしかして…

これから始まる絶望的な日々を予感せずにはいられなかった。

第1部終わり



あとがき

南国球児作品を購入して頂きありがとうございます。

今作品は、久しぶりに得意？の野球少年たちで、
挿絵を描きながら楽しみつつも、
どこまで抑えるかに苦労しました。

この作品で登場する少年たちは、皆、主役級のキャラとして描いてます(^_ゝ)

初めは、単純に人気者のキャプテン翔太を恥辱するだけで
終わる予定でしたが、それだけでは物足りないので、
小学校時代からのチームメイト、大切な仲間達を恥辱していき、
最後に本命の翔太に行き着く…。
そんな形で小説を一気に書き上げました。

挿絵に取りかかるうち、サブキャラ、前菜の少年たちも魅力的で無いと
意味ないな～って…気がつくこんな感じに仕上がりました。

前作品が、『小説メインで挿絵少なめ』、しかも完全に『ショタ BL 恥辱もの』
なのであまり売れないだろうな～と思いながらも、
どうしても描いておきたい少年愛作品だったので仕上げましたが、
予想外に最速の売上で、今後の方向性に悩んでいます(^◇^;)

小説の内容を評価してくれている読者さんが多いのかな～と思いつつ、
今作品は、『小説部分少なめ、挿絵多め』で仕上げました。

続編では、さらにマンガ寄りで恥辱プレイ重視に仕上げる予定です。
お楽しみに！

2020 5月

南国球児

ブログで新作の予告や、未発表の挿絵など発信しています。

『南国球児 ブログ』でググって下さい。コメント頂けるとありがたいです。

おまけシーン

竜太の朝の夢精は、太地（たいち）の夜這い悪戯が原因だった。



自分のオナニー姿を見られるのが大好きなかける先輩
同級生達は、中1の頃から何度も駄琉のオナニーを見せられている。
露出性癖のかける先輩にとっては、初めての後輩達に見られる興奮を
楽しんでいた。



中1の頃は、友達がおナニーをしているか分らず、とても恥ずかしい。

性欲旺盛ながら友達の前では下ネタを決して話さない雄星
かける先輩による、強制オナニー姿披露によって、
新たな快感に芽生え始める。

雄星(ゆうせい)

いつもはオトボケキャラだが、
試合となると別人のように
凛々しく、男らしい表情になる。

小学校時代からカラダは大きく、
キャプテンの翔太は3番、
雄星は4番を打っていた。

風呂場での、強制オナニーだが、
下ネタが苦手な雄星にとっては、
大恥をかく経験となった。
同級生や、後輩達の前で、
まさか、チンポを抜いて、
勃起姿を見られるなんて、
屈辱的で泣きたかった。

同時に、露出、恥辱の快感を覚え、
その快感を求めて、夜中の
グラウンドや公園で一人、
全裸素振りを披露し、
そのたくましい肉体を
オカズにされることになる。



恥辱の性癖に目覚めてしまい露出願望を抑えられない雄星

中学2年にしては体つきが大きい方だが、やはり顔つきの幼さ、皮の被ったおちんちんから中学生なのは見て取れる。



見られるだけで満足、先走りを垂れ流すが、この後どうなるのだろうか…

やんちゃな同級生『勇輝』くんの変な形のチンポ



悲劇のちんぽである…

竹の子型チンポの竹志



付け根の幅が6cmという、中学生の手首並の太さであり、握っても指が回らないほど太いが、逆に亀頭は異常に小さい可哀想なちんぽだ...



続編お楽しみに！

ホント、見られるの
好きだよな…
先走りタラタラじゃん…

2年の登録メンバー！
中1に性教育だ。
オナニーの
やり方を見せるぞ！

中3 駆琉(かける)先輩
センターを守る強肩

意外にも丸被りの
真性包莖ちゃんぽだが、
太くて真っ直ぐの
性格そのままでの
良いチンポだった。

お？オナニーショーか？
かけるのヤツ…
良いケツしてるぜ

大人のおちんちんの
中3、かける先輩の
オナニーショーに戸惑い
興奮気味の後輩達…
中には、つられて
勃起してしまう
後輩達もいた。

オナニーって何？
お前、もう
やったことある？

まだだよ…
なんで聞くの…

かける先輩…
ちんちんデカイ！
チン毛ボーボーだ

精通もまだの中1

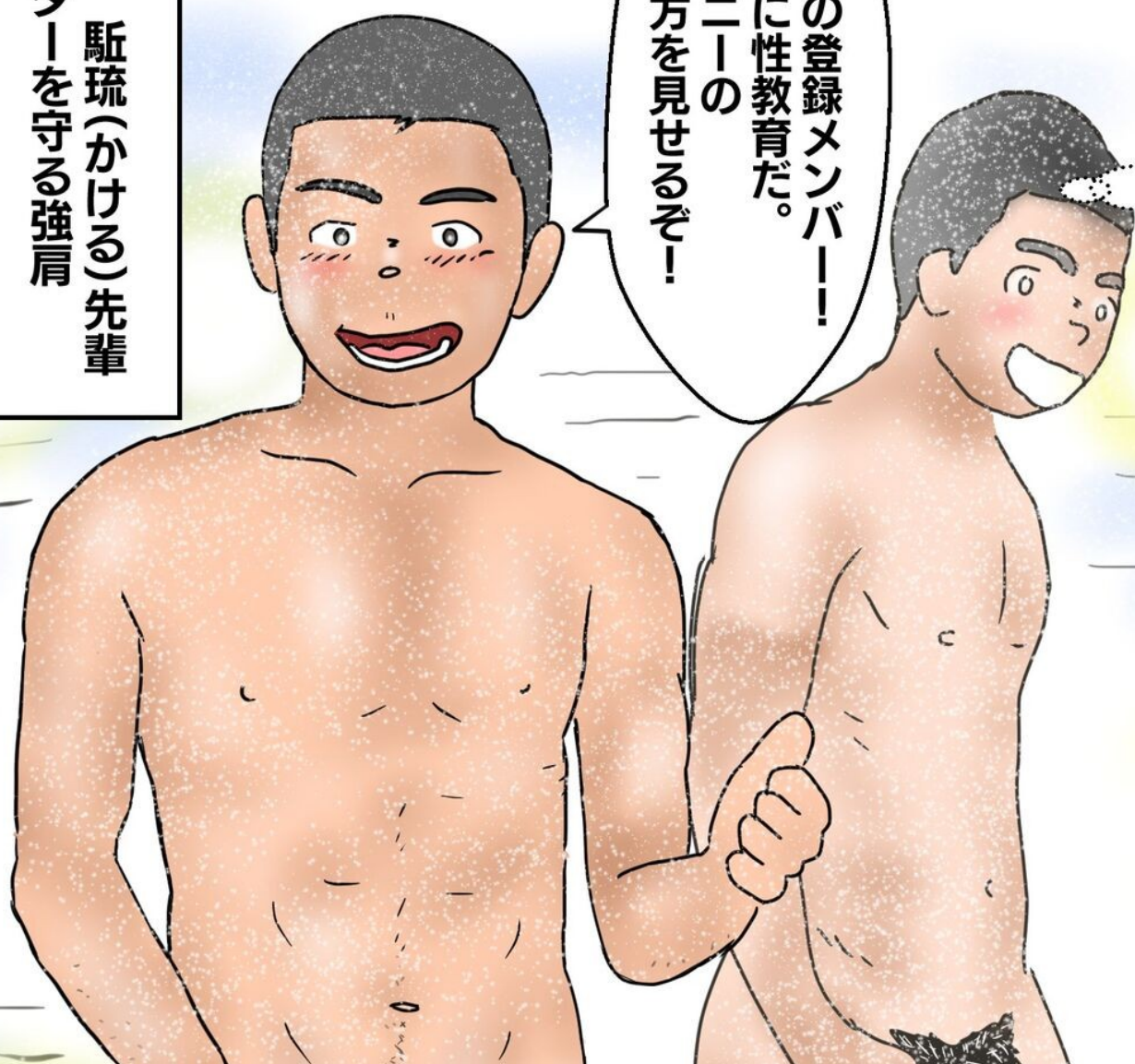
オナニー
覚えてたの中1



ホント、見られるの
好きだよな…
先走りダラダラじゃん…

2年の登録メンバー！
中1に性教育だ。
オナニーの
やり方を見せるぞ！

中3 駈琉(かける)先輩
センターを守る強肩



小学校最後のスーパー銭湯で
みんなでフルチンで記念撮影

その頃から
同性の裸に
興味を持っていた
ボクは、
恥ずかしいとは
知らず、
勃起している
ちんぽを晒していた。
この写真でも、
ピンピンに
勃起した姿が
撮られていた…

この写真から
約2年経ち、
みんなのチンポは
どれくらい
成長しただろうか…

ゆづせい

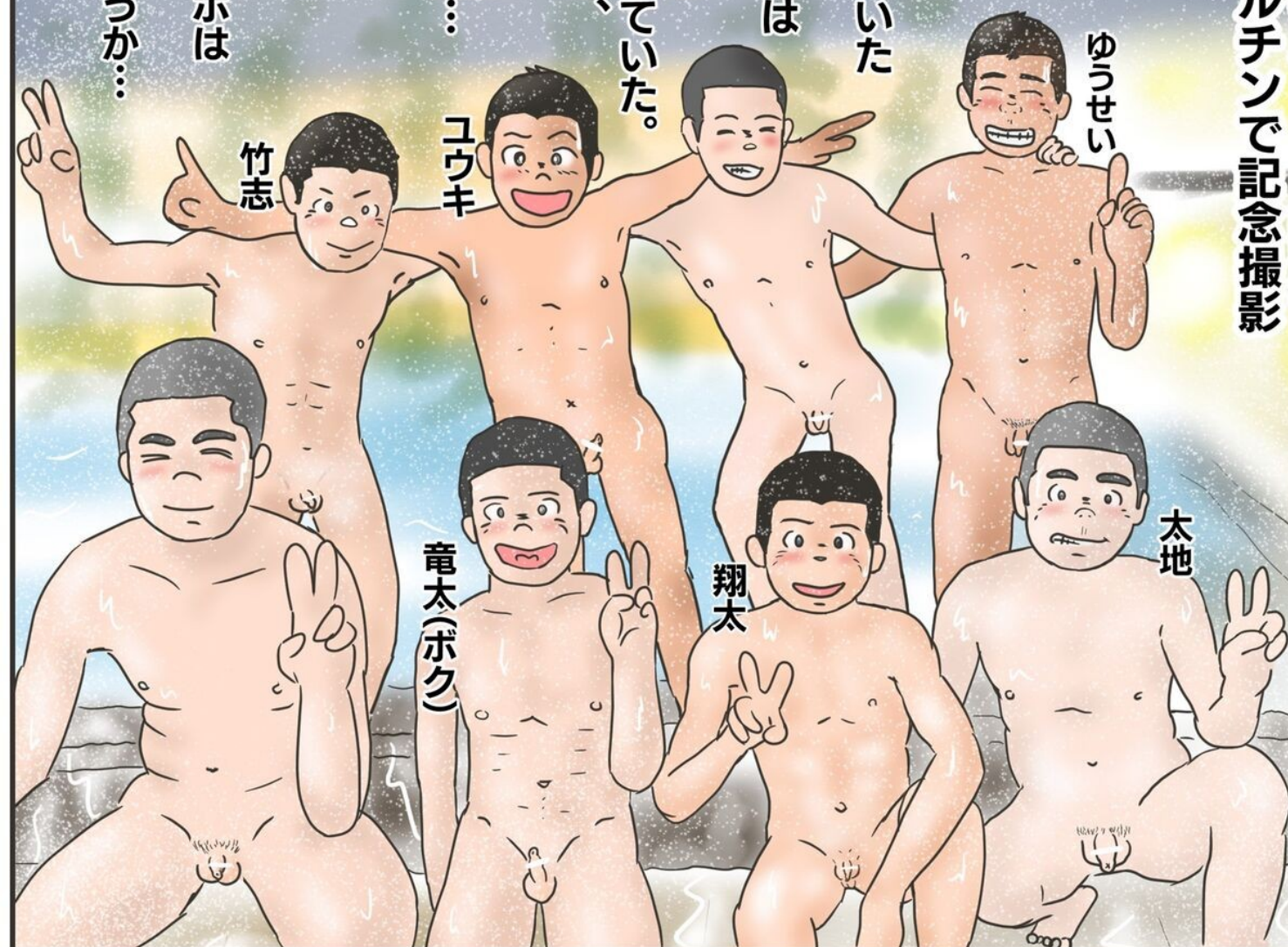
竹志

ユウキ

太地

翔太

竜太(ボク)



小学校時代の
栄光の歴史だ。
県大会優勝は常連
そして
九州地区でも
優勝を果たした。
その時のキャプテンが
翔太だったのだ。







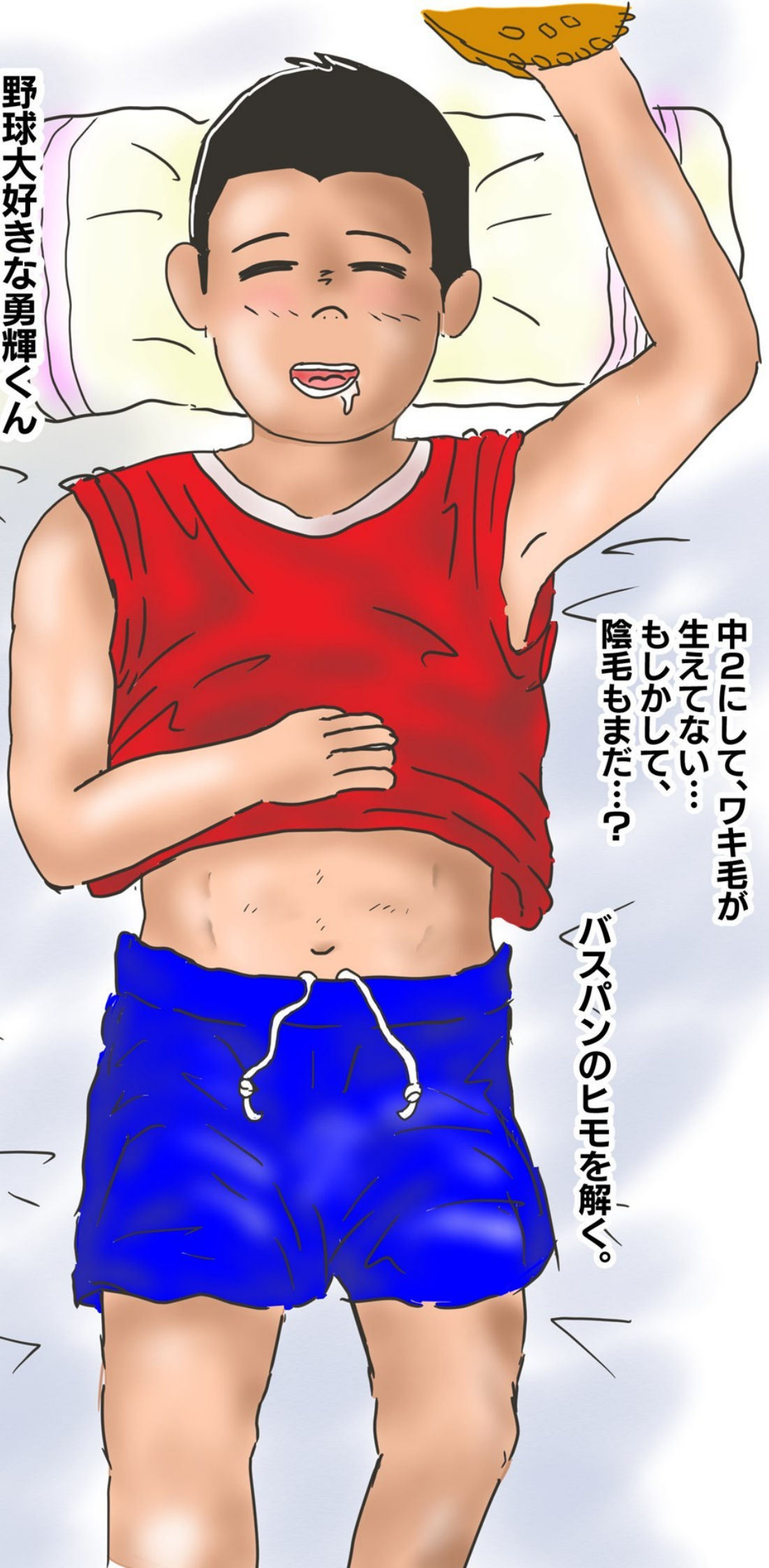
可愛いイタズラ好き
勇輝(ゆうき)君
カラダは細めだが
運動神経は良い

小学校時代のツルツル、
小さなチンポのイメージが強い…
可愛い顔して、もう陰毛は
生えているのか？

野球大好きな勇輝くん
寝ているときも
グローブをはめたまま…

中2にして、ワキ毛が
生えてない…
もしかして、
陰毛もまだ…？

バスパンのヒモを解く。



ワキ毛はツルツルだが、
細く、産毛に色が着いたような
陰毛が生えていたのだ…

ちんぽの大きさは、
予想よりは大きい…
先っぽに余った皮…
なんてエロいんだろう…

うわ！
陰毛生えてる！

小学生のような
パンダ柄の
トランクス…
やっぱり可愛い…



竿、細っそ…
亀頭デカすぎ！
かたちキツモ…

モミモミすると
直ぐにフル勃起した
なんて奇妙なちんぽだ？
可愛い顔して、
超、ヘンタイちんぽの
勇輝くん…

勇輝くんのチンポは
勃起すると、
竿は細く、
先っぽだけが
プクツと膨らみ
とても変な形だった。

一度、ハメたら抜けない
殺人的ちんぽの持ち主…

先っぽが締まってて、
チンカスや、精子が
ぱんぱんに溜ってて、
デカいのか？

勇輝くんのあだ名は
チュッパチャプスに決定だ！

ユウキ

小6の頃は普通のちんぽ…

高校3年で、
初めて彼女と
エッチをしようと
したとき、
この変なちんぽの
形を笑われ、それが
シヨックで勃たず、
その経験が
トラウマとなり
一生を童貞で終える。

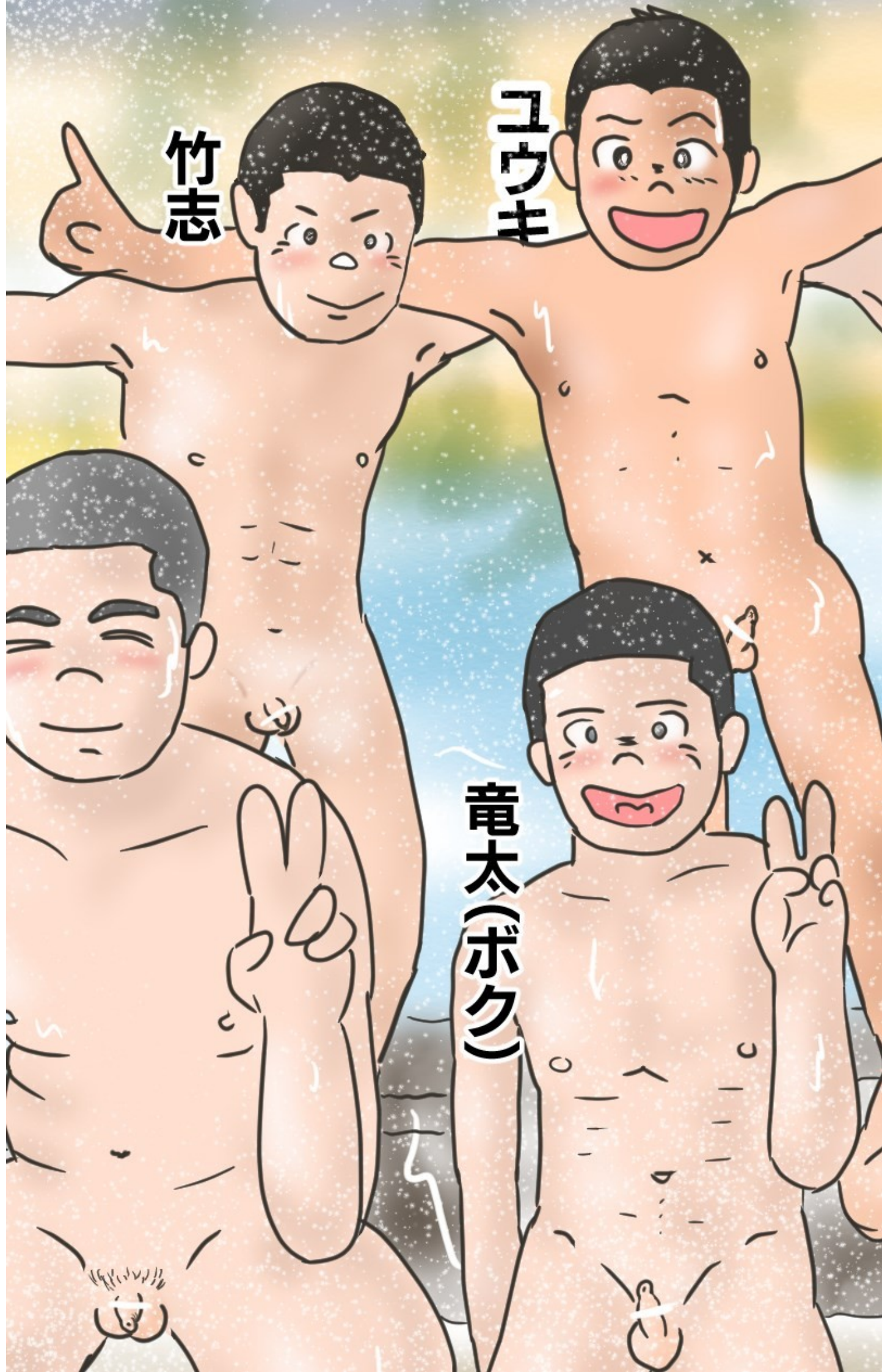
ペロペロ
ン



竹志

ユウキ

竜太(ボク)



竹志(たけし)は、
スタメンでは無いが、
登録メンバーとして
ベンチ入りしている。

竹志(たけし)
けっっこういいヤツ



こんな根元だけ太く、先っぽが
異常に小さな亀頭のちんぽ…
これじゃあ、女を満足させるのは
無理だろう。可哀想だから、ボクが
しゃぶってあげようww

腹筋バッキバキで
期待したが…?
なんだ?
フル勃起しても
短い…でも、根元が太い…
と言うか…
亀頭が異常に小っちゃい…

ぶっと!
いや、
みじかw

マジか…
これで
フル勃起かよ…

あだ名は、
竹の子太郎に
決定!



可愛い顔して…
ド変態ちんぽ…



後から写真で長さを推定
竿部分6cm、亀頭2cm
付け根の幅5cm、亀頭の幅2cm

根元が太すぎて、
握った手の指が
届かないほどだった。

ゆいせい

太地



雄星(ゆうせい)

いつもはオトボケキャラだが、
試合となると別人のように
凛々しく、男らしい表情になる。



おとぼけキャラの雄星
しかし、友達の前では
決して、下ネタは話さず、
エッチな話は苦手だ…

そんな雄星は精液の量が多く、
射精の勢いもスゴイ…
まさに4番にふさわしい
飛距離である。

しかし精力は旺盛で、
毎日3〜5回の
オナニーが日課である。

ときどき口に入る
自分の精液を味わう
隠れ変態DMでもあった。

部屋では
必ず全裸で
オナニーする



合宿での強制オナニーにより、
雄星の生来のDM気質が開花し、
恥辱、露出の性癖が
決定づけられてしまったのだった。

雄星(ゆうせい)

いつもはオトボケキャラだが、試合となると別人のように凛々しく、男らしい表情になる。

小学校時代からカラダは大きく、キャプテンの翔太は3番、雄星は4番を打っていた。

風呂場での、強制オナニーだが、下ネタが苦手な雄星にとっては、大恥をかく経験となった。同級生や、後輩達の前で、まさか、チンポを扱いて、勃起姿を見られるなんて、屈辱的で泣きたかった。

同時に、露出、恥辱の快感を憶え、その快感を求めて、夜中のグラウンドや公園で一人、全裸素振りを披露し、そのたくましい美肉体をオカズにされることになる。



恥辱、露出の性癖に目覚めてしまった
雄星は、夜な夜な自転車で
少し離れた公園で
全裸姿を披露するのだった。
そこが発展公園だとは知らずに…

いいカラダしてるね、
高校生？ 中学生？
おちんちんの毛は剃ってるの？

肌、プリプリだね…
中学生でしょ？

皮かぶってるね…
真性包茎？
剥いてみていい？

先走り
垂らしてるよ…
お兄ちゃん
変態だね…

お兄ちゃん、
見られるの好きなの？
触ってもいい？



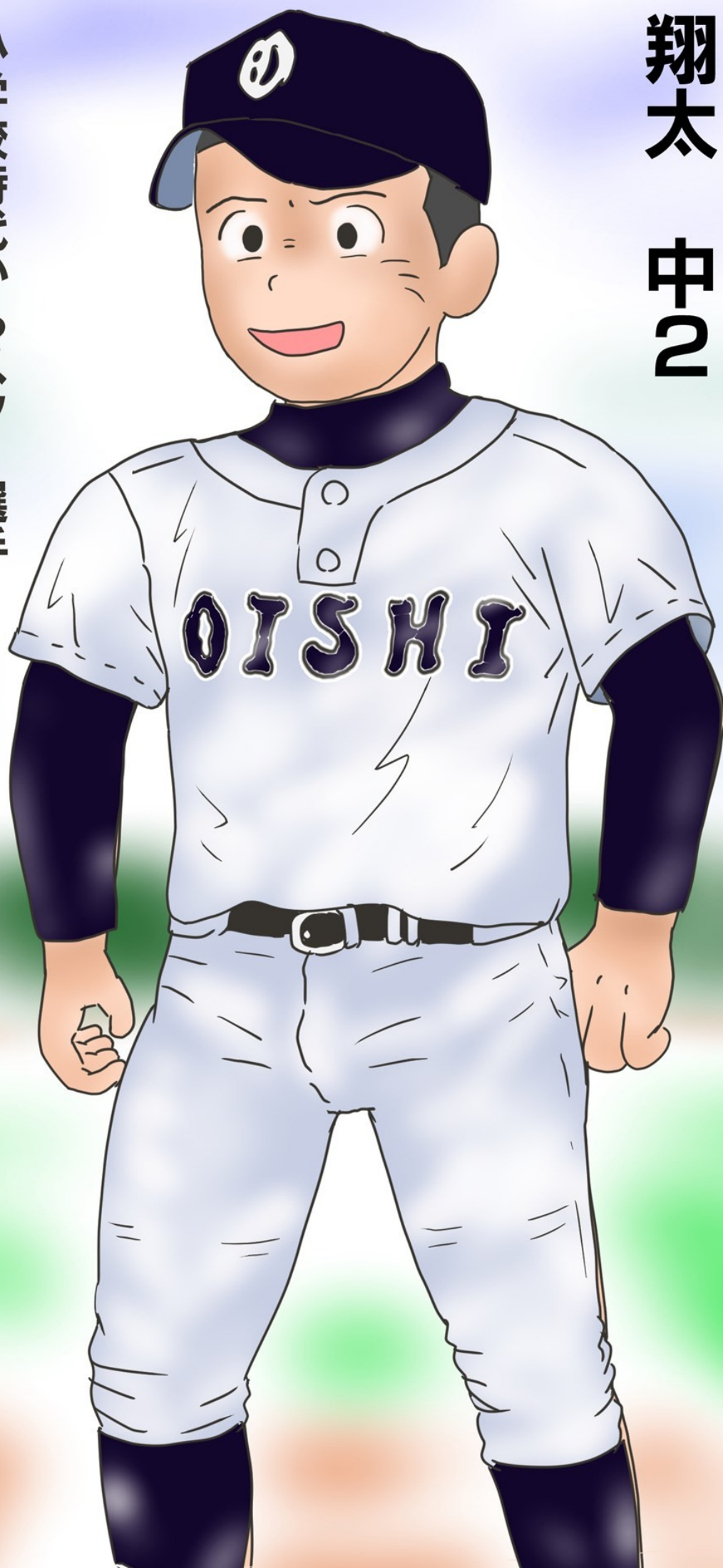
竜太(ボク)

翔太

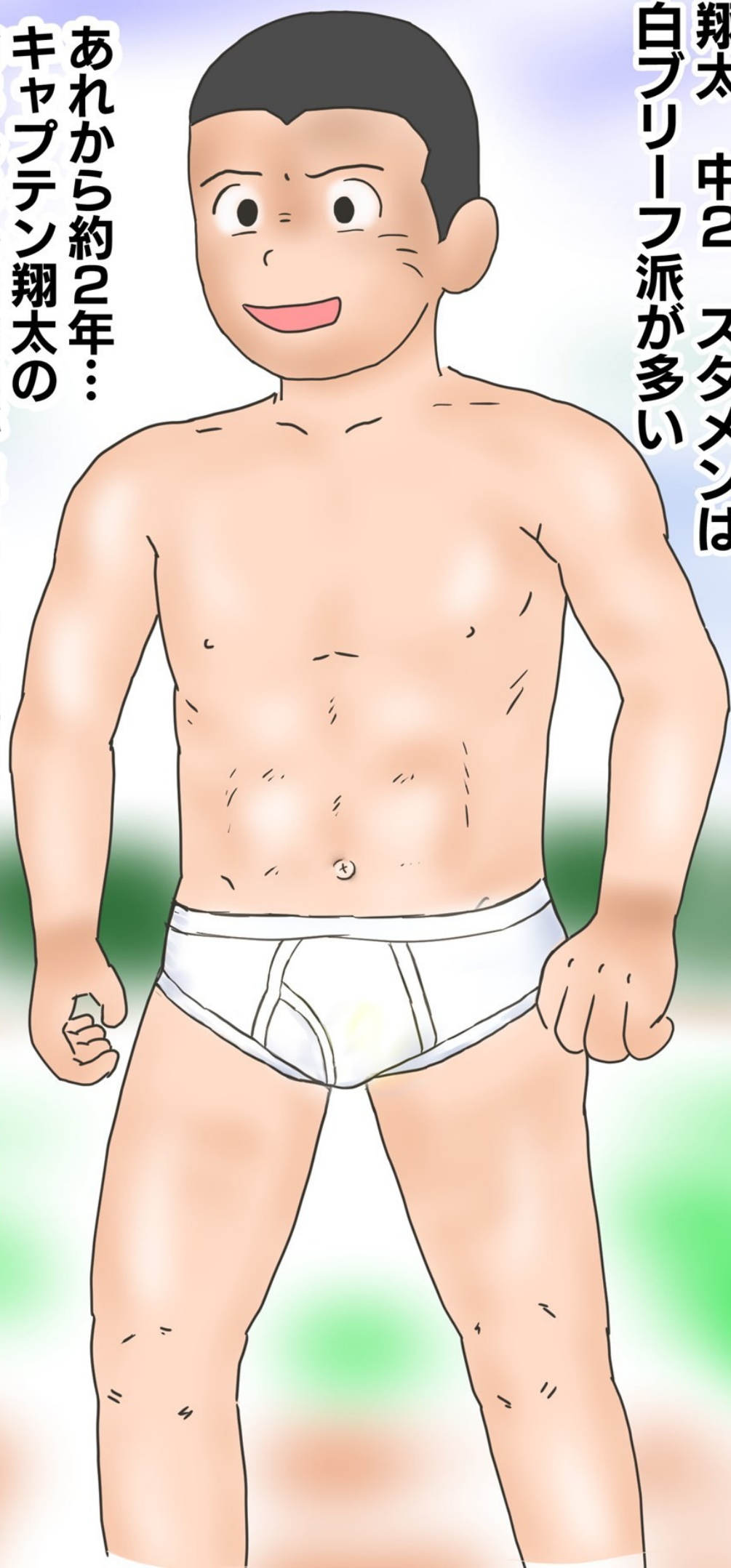


翔太 中2

小学校時代からスター選手
中1から3年チームの
レギュラーとして使われる。
みんなの憧れの存在だ。



翔太 中2 スタメンは
白ブリーフ派が多い



あれから約2年：
キャプテン翔太の
おちんちんに陰毛が生えている姿を
想像してみる：ブリーフ派の為、
体育の時間などにハミチンも無く、
生チンを見れるのは久しぶりだ：

翔太はデベソである
他小出身メンバー補欠達は
欠点の見つからない
翔太に対し、陰でデベソを
馬鹿にしていた：

僕らの自慢の
キャプテン翔太
これから、この人気者
翔太のおちんちんを
写真に収め、
恥辱するのだ。

キャプテン翔太
大石中の翔太と言えば
野球をやっていたいれば
知らない者はいない。

性格は優しくて明るい。
誰とでも直ぐに仲良くなれる。
少しだけ天然キャラだが、
野球をする姿は真剣そのもの。
童顔の美少年であり、誰からも
愛されるキャラだ。





ボクらの キャプテン

翔太

顔つきから想像は出来たが、
ゆうき同様、まだ
ワキ毛は生えておらず、
ツルツルだ…

期待が膨らむ
陰毛は…？

勇輝くんのように
ちんこの毛だけ生えている？

翔太のちんこを見るのは
小学校の銭湯以来だ。

あれから約2年…

体つきも変わった。

あの小さくてツルツル
ぷりぷりのおちんちんが
どれだけ成長しただろう…

翔太のトレードマークの
デベソが丸見えだ…

普段は、恥ずかしがって
絶対に見せてくれないデベソ…



翔太のパンツはグンゼだ。
中学になると、
グンゼの青い糸のラインが
小学生みたいで恥ずかしいから
無地の白いブリーフが
多くなる。
翔太のグンゼのサイズは160だ。
無地のまっ白な厚みのある
白ブリーフに比べ、
グンゼのブリーフは
生地が薄目で通気性が良いが
透けそうでとてもエロい…



要領を得たボクは、
意外と脱がしても
起きないことを知り、
調子に乗って
翔太のバスパンを
全部、
脱がしてしまっていた。
パシッ！
翔太の恥ずかしい姿を
全部記録しておこう…

このまま、全部脱がしても
起きそうにない…
全裸にしたい…
カッコ良くて
カワイイ翔太…
ボクらのキャプテンを
全裸にしたい…

中学校になって、
着替えの時には
パンツを隠すように
着替え、
こんな恥ずかしい姿を
晒すことなんて
絶対に無くなった…
ブリーフ一枚すがた…

どんどん、調子に乗って
上着もめくり上げてみた…

ス
ス

パ
ニ
ン
ヤ

パ
ニ
ン
ヤ

こんな姿を写真に
収められている
だけでも
十分に恥ずかしいのに、
これからパンツを脱がし、
おちんちん丸出しの
恥ずかしい顔入り写真を
撮影されるのだ…



キャプテンの翔太…
信頼しているチームメイトとの
合宿の夜、まさか自分が
こんな辱めを受けているなんて…

安心しきった無防備な寝顔
まさか、ツルツルの無毛の
恥ずかしい粗チン姿を
写真に収められているなんて…

すごい
デベソ…

まさか、自分で
剃ってるのか？

あまりの恥ずかしい
粗チンぶりに
笑いが
込み上げてくる



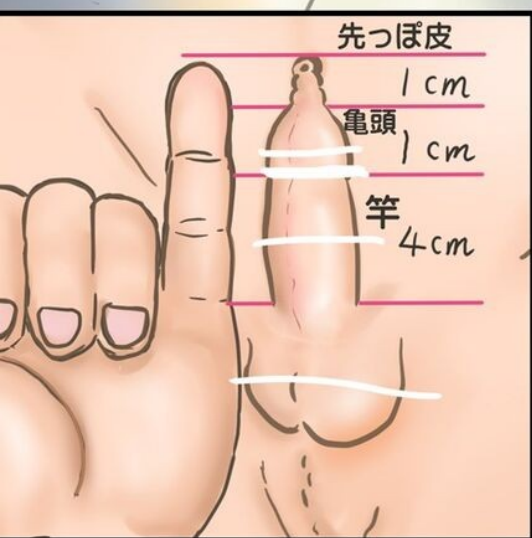
興奮で調子に乗りすぎたボクは…
なんと、翔太をほぼ全裸姿に
してしまったのである…
こんな状態で
誰かが起きたら？
そんなドキドキ感が
更なる
興奮を
高めていく

昼間の姿からは
全く想像すら
出来ないほどの
恥ずかしい姿だ…

プププ…
なんだコレ…！
これがキャプテンの
ちんぽ？
ぷぷ…プププ…

わき毛もツルツル…
ちん毛もツルツル…
ちんぽの大きさも…
ぷぷっ…
笑いを堪える…
こんな粗チンをみんなが
知ったら…





後から正確な大きさを
確認出来るよう、目安を
並べて写真に撮った。
他のメンバーは手のひらだが、
翔太はあまりに小さすぎ、
小指とちょうど同じだった。

先っぽに余った
1 cm くらいの皮先を
摘んでクリクリと
刺激してみる。

みるみる固くなって
フル勃起したのだが…
ヤバイ…
こんな小っちゃなチンポ
幼稚園児なみか…？



先っぽ皮

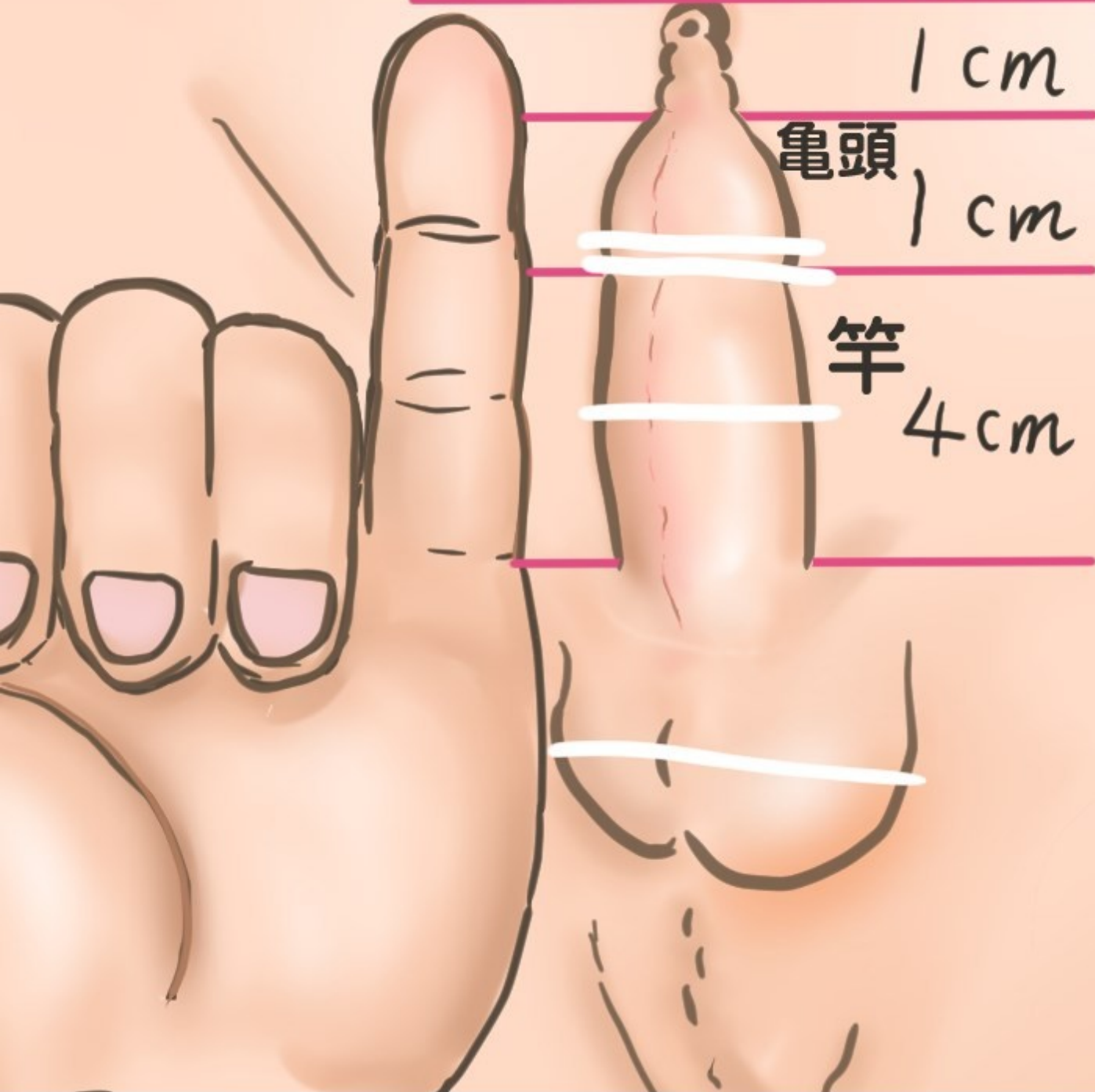
1 cm

亀頭

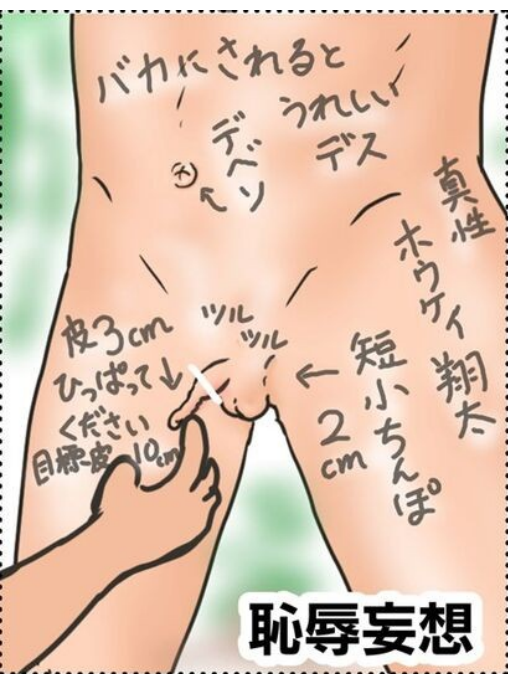
1 cm

竿

4 cm



翔太の皮
もつと
もつと
伸して
みつとも
ない
恥ずかしい
ちんこ
にしたい…
そして
他中の
グランドに
全裸にして
目隠し
して…
ハアハア…



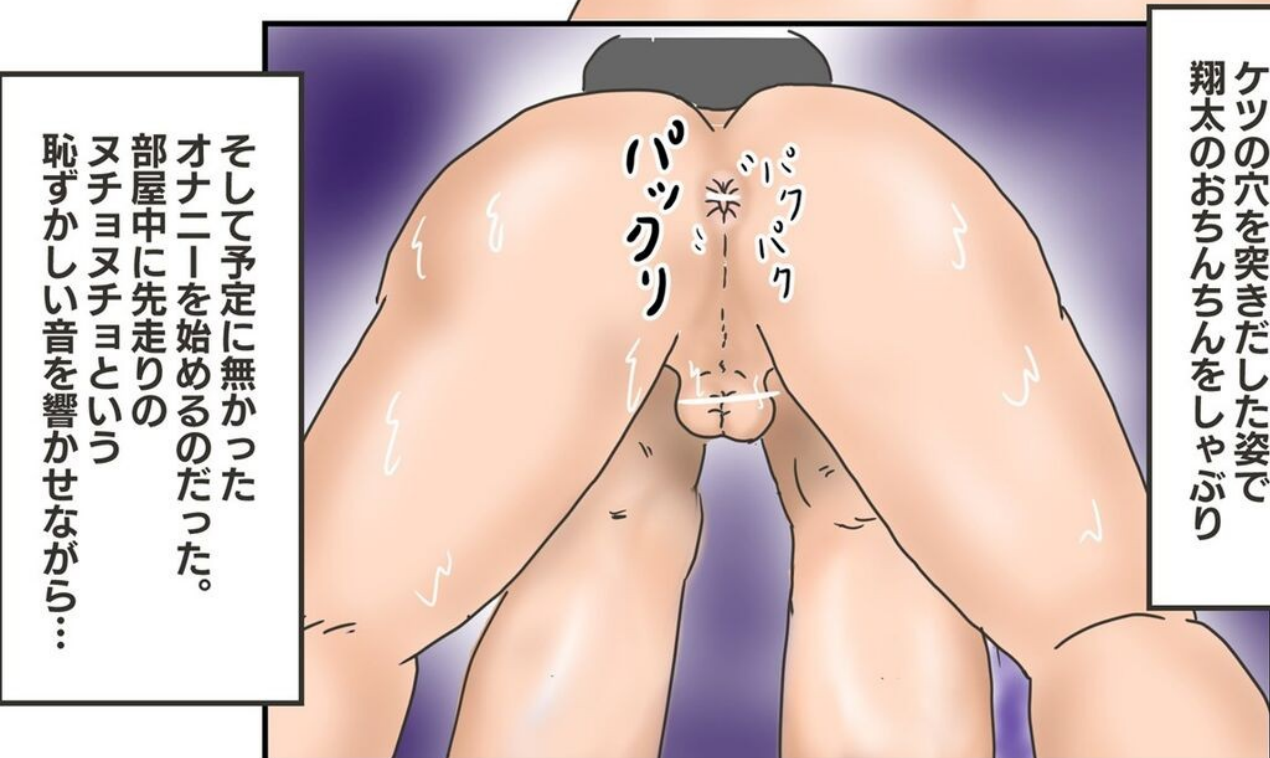
恥辱妄想



ああ…
あああ…
キモチイ
ヤバい…
ああ…
ヤバい…

翔太デベソ…
へへ…デベソ
カワイイ…

先っぽの皮…
ペロペロ…
パクリ…
ペロペロ



琉聖の精液を飲み干し、
調子に乗りすぎた僕は、
下半身丸出し、
ケツの穴を突きだした姿で
翔太のおちんちんをしゃぶり

そして予定に無かった
オナニーを始めるのだった。
部屋中に先走りの
又チヨ又チヨという
恥ずかしい音を響かせながら…

ここはいいたい…
そして、翔太の身に何が…

なんだ…？
ここどこだ…
う…動けない…

え？
さむい…
オレ、もしかして裸？

スター選手
県内、野球少年たちの間で
知らない者はいないほど
有名選手の翔太

目隠しされ、手足を縛られ、
自分がどんな姿で
晒されているかすら
分らず、そして
どこにいるのかすら
知ることが出来ない。

南国球児

太地（たいち）
小学校からの
チームメイトだが
静かで存在感は薄い。
いつもいるのに
幽霊部員だ。

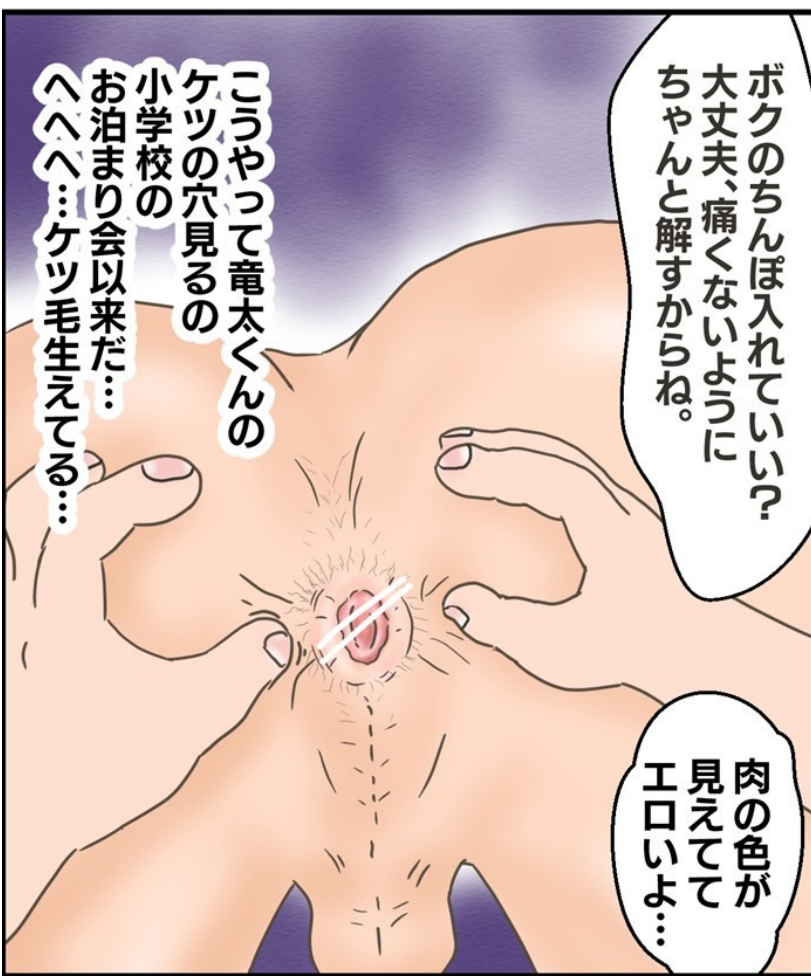
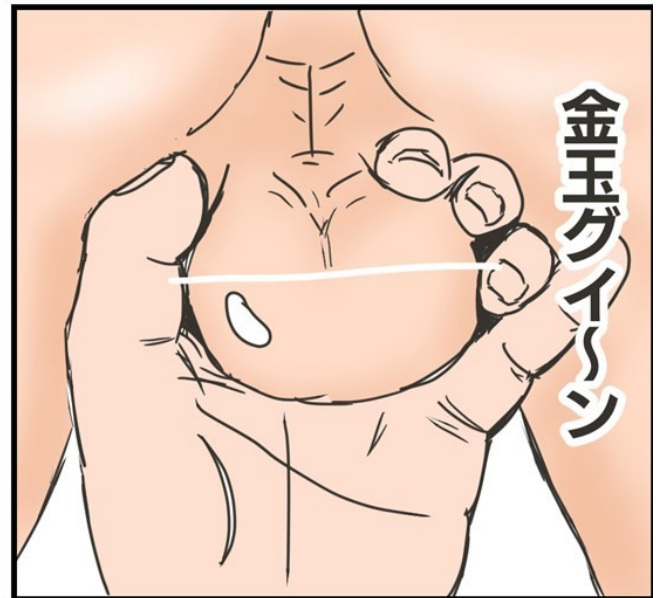
逆に、生き写しの
父親は、態度もデカく
仕切り魔である。





翔太

太地



竜太くん
顔に似合わず
結構毛深いね。

終わった...
終わった...
ああ...

いや...
ここからが
始まりだった

金玉グイッ

昨日は短パンの上からしか
イタズラ出来なかったけど
これからは竜太くん...
ボクの言いなりだ...

ボクのちんぽ入れていい?
大丈夫、痛くないように
ちゃんと解すからね。

肉の色が
見えてて
エロいよ...

ボクの唾液だけじゃ
足りないな...
そうだ、
竜太くんの精液も
ケツの穴に入れちゃお

こうやって竜太くんの
ケツの穴見るの
小学校の
お泊まり会以来だ...
へへへ...ケツ毛生えてる...

小学校時代のお泊まり会

おちんちんを
触るワセ?

好きな
友達の頭を
ナデナデ

陰毛の産毛の
感触を無意識に
確かめる

ヤッ
ヤッ

小6になると
産毛が生えかけた子は、
寝ているとき
無意識に、
パンツに手を突っ込んで
サワサワしている。



